

令和5年度 学修行動等に関する調査結果のまとめ

R6.2.10 IR センター

本学における教育の質保証に向け、学生の学修成果や学修行動等を把握し、教育改善の資料としても活用する目的で継続的に実施している標記調査について、令和5(2023)年度の結果を以下のとおり報告します。

1. 実施方法及び調査内容等

『令和5年度 学修行動等に関する調査実施要項』のとおり。

(1)実施方法	① 対象:全学科、全学年 ② 日時:令和5年10~11月(各学科で実施。原則、短期大学基準協会「短期大学生調査2023」と同時期) ③ 手続き:各学科クラスアワー等の時間を活用し、アンケート調査(Web 入力)として実施
(2)調査内容	① 学修態度:授業及び授業外での学修への取組態度 ② 教養教育及びキャリア教育の学修成果:到達指標に対する到達度の自己評価 ③ 専門教育の学修成果:到達指標に対する到達度の自己評価 ④ カリキュラム等に対する要望:開設希望の教科など(自由記述)

2. 回答した学生数と回答率

「表1 令和5年度 学修行動等調査回答学生数」(1頁)のとおり。

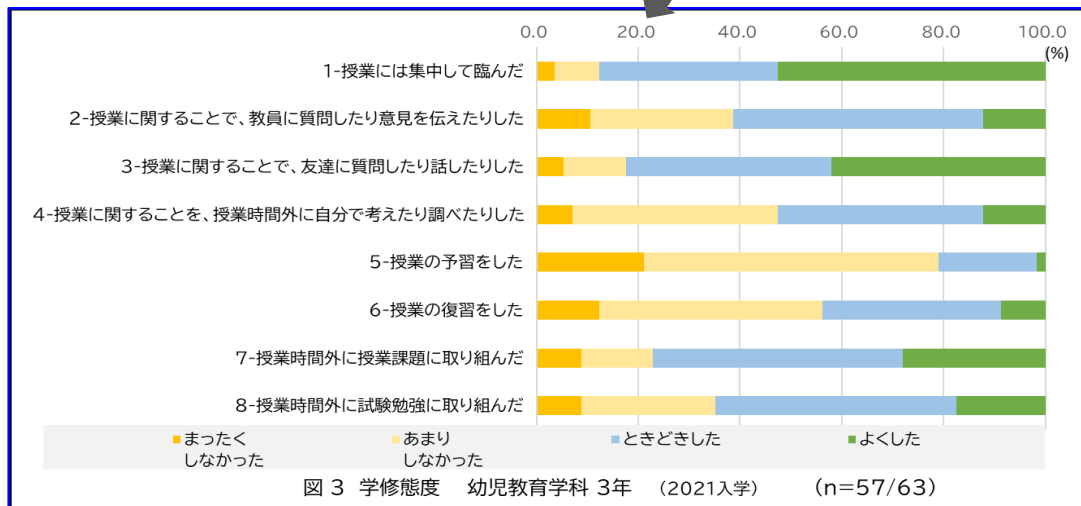
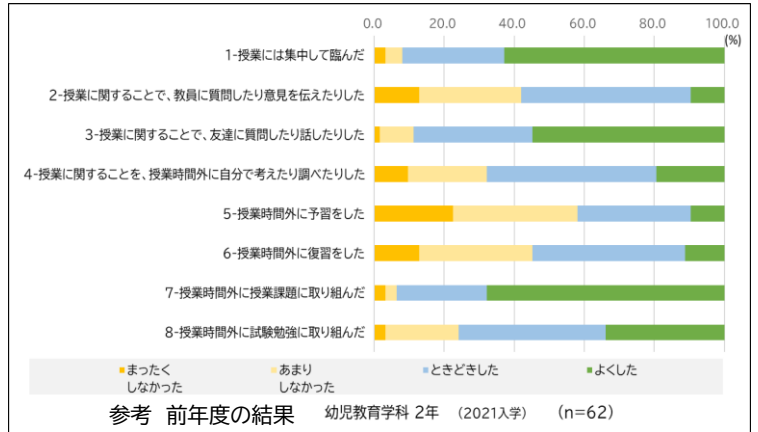
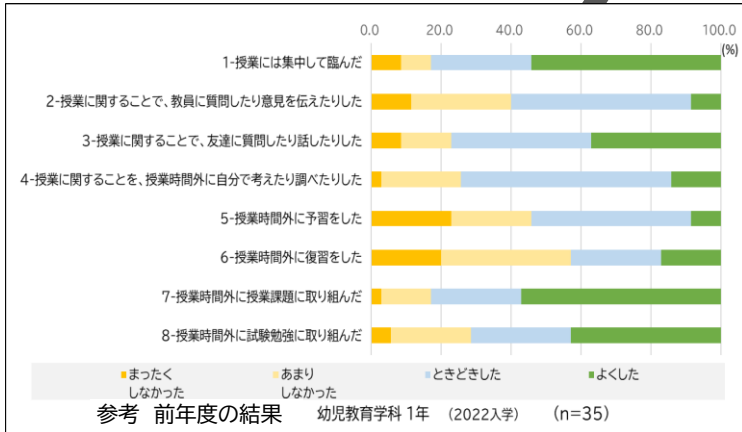
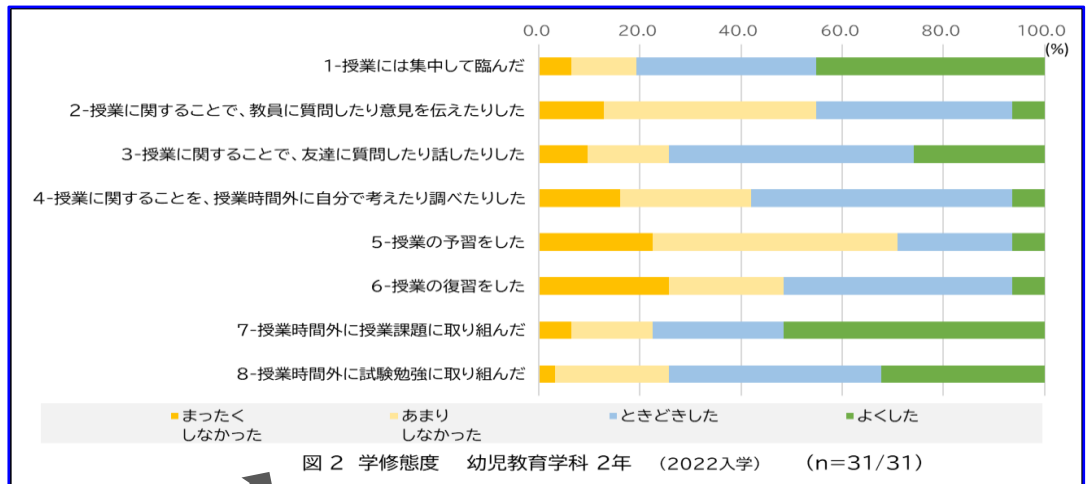
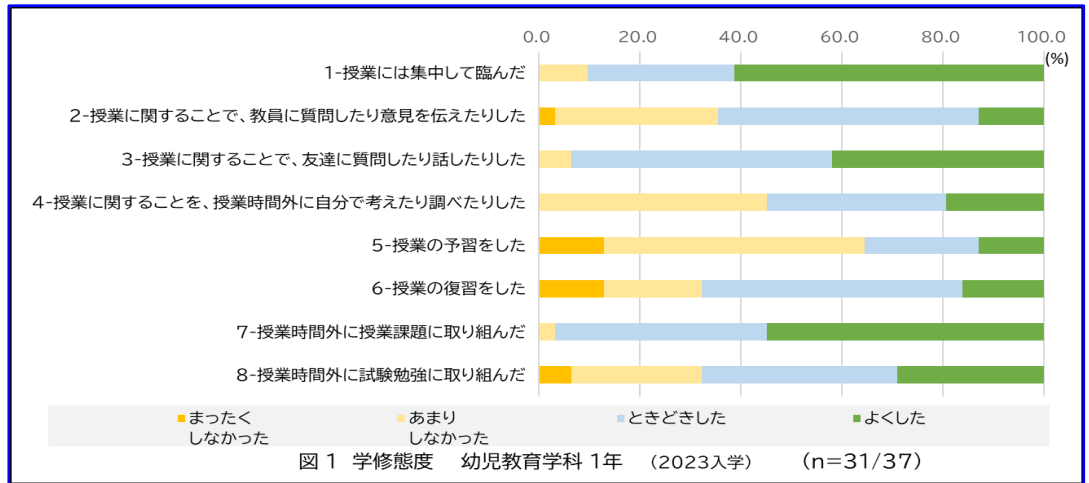
表1 令和5年度 学修行動等調査回答学生数

調査回答学生数 [回答者人(在籍者人)回答率%]	1年	2年	3年	計
幼児教育	31(37) 84%	31(31) 100%	57(63) 90%	119(131) 91%
デザイン美術	39(42) 93%	38(47) 81%	-	77(89) 87%
音楽総合	39(39) 100%	37(42) 88%	-	76(81) 94%
歯科衛生	39(41) 95%	43(48) 90%	52(54) 96%	134(143) 94%
計	148 (159) 93%	149(168) 89%	109(117) 93%	406(444) 91%

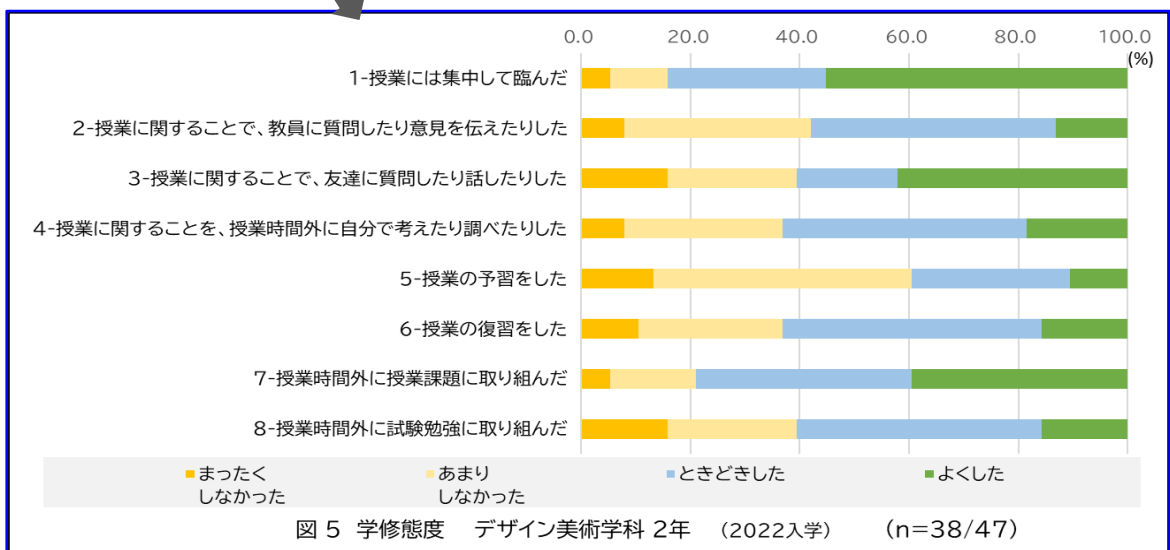
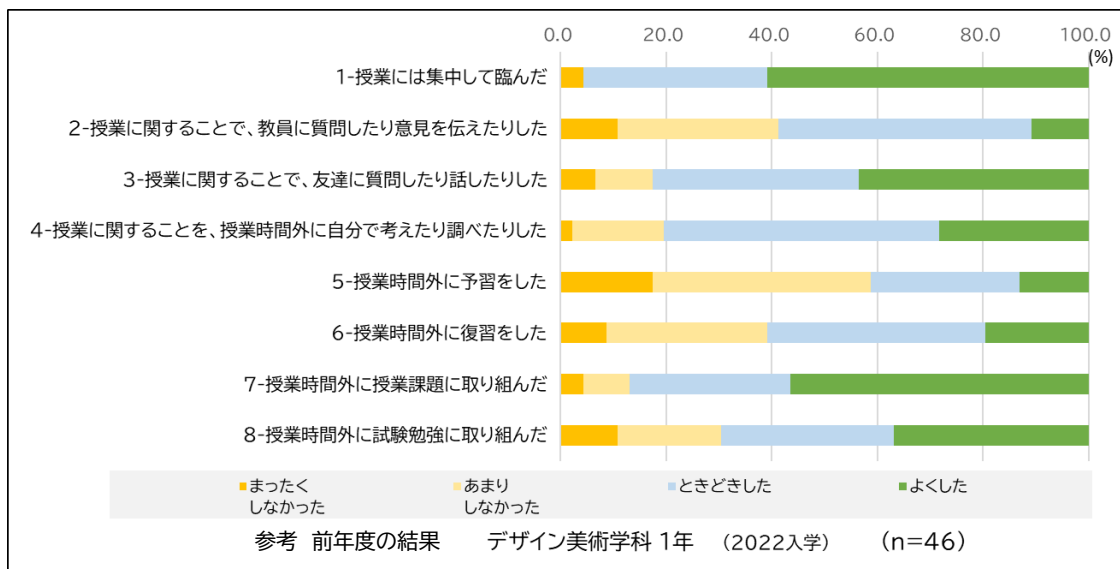
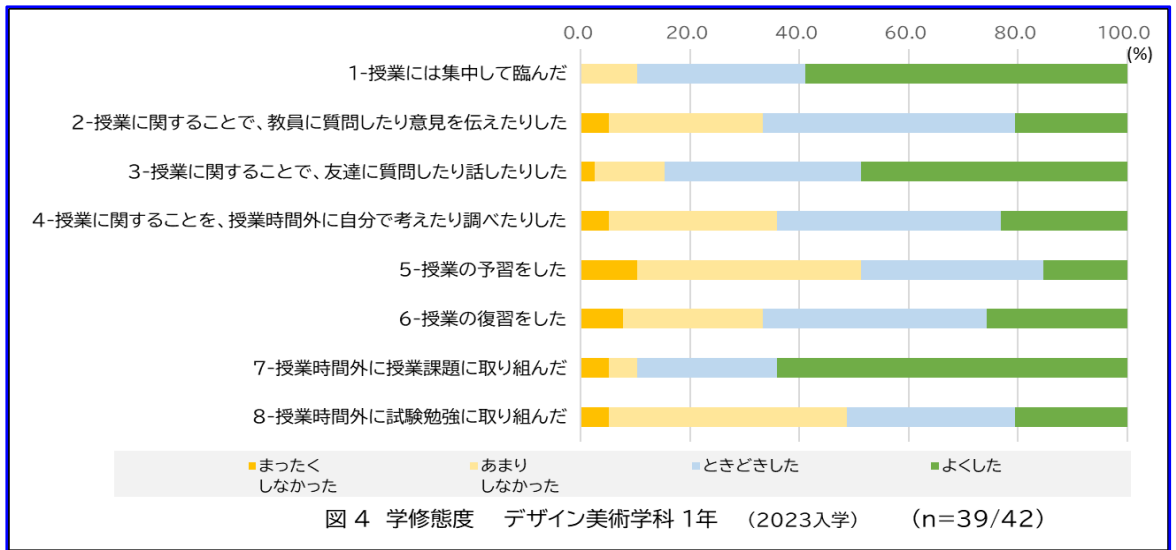
参考:令和4年度 調査回答学生数

調査回答学生数 [回答者人(在籍者人)回答率%]	1年	2年	3年	計
幼児教育	35(35) 100%	62(65) 95%	39(42) 93%	136(142) 96%
デザイン美術	46(49) 94%	42(47) 89%	-	88(96) 92%
音楽総合	41(44) 93%	62(67) 93%	-	103(111) 93%
歯科衛生	48(50) 96%	51(54) 94%	54(58) 96%	153(162) 94%
計	170 (178) 96%	217(233) 93%	93(100) 93%	480(511) 94%

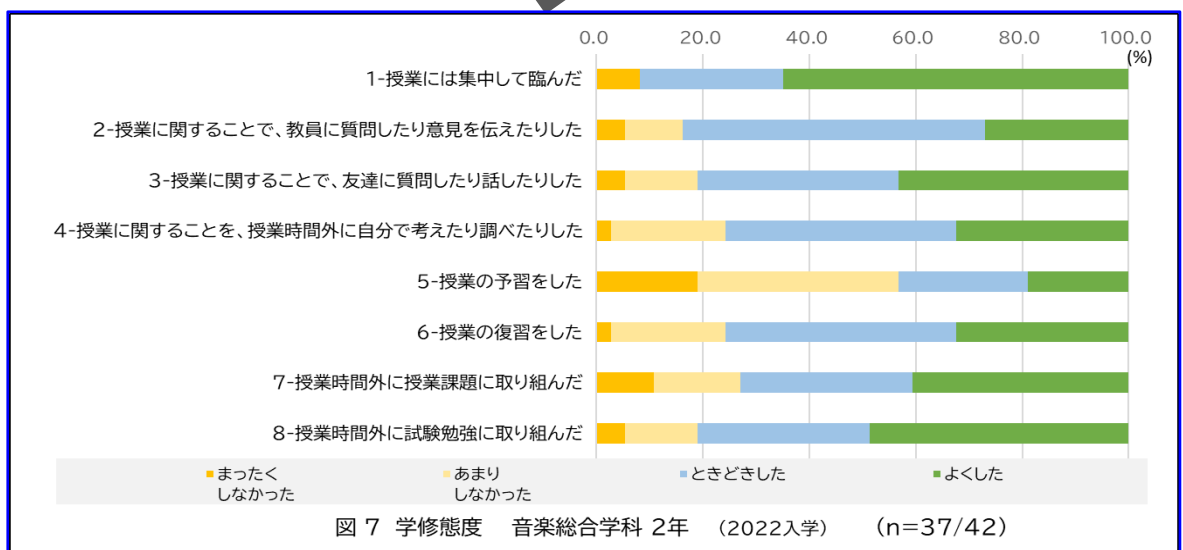
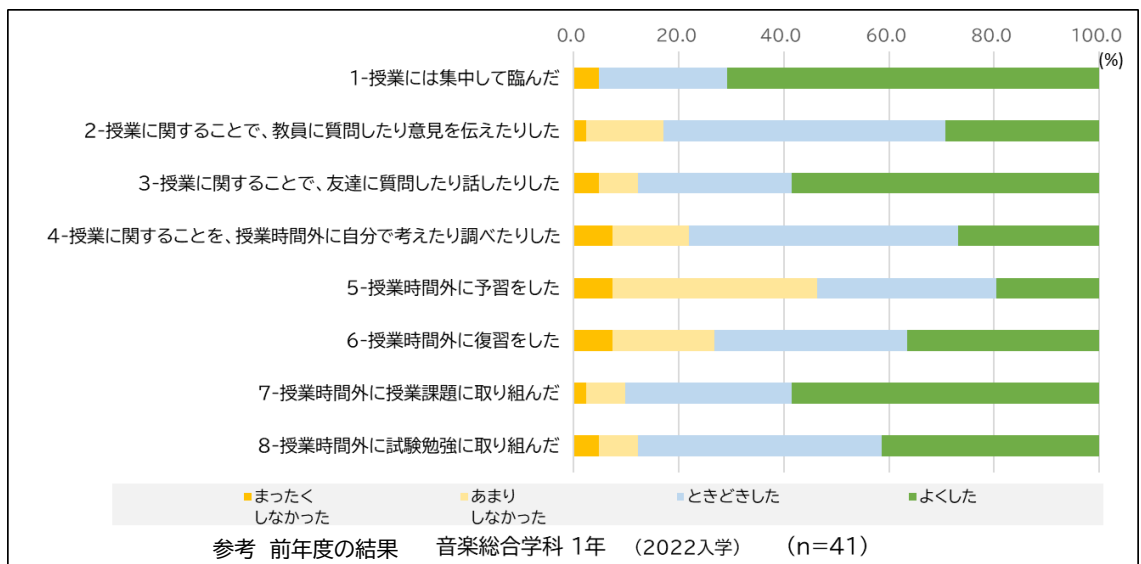
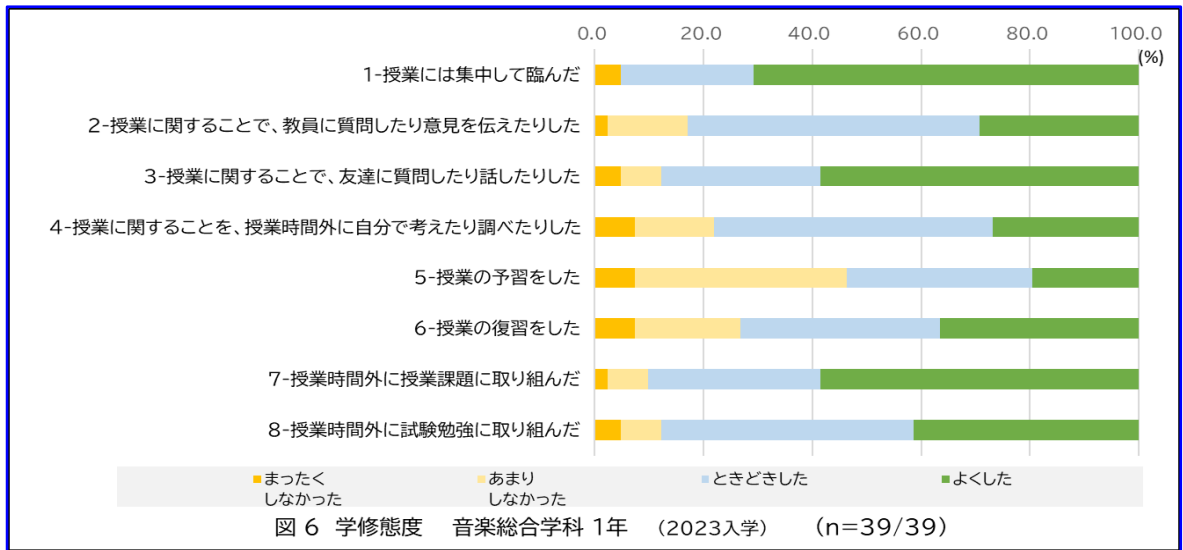
① 幼児教育学科



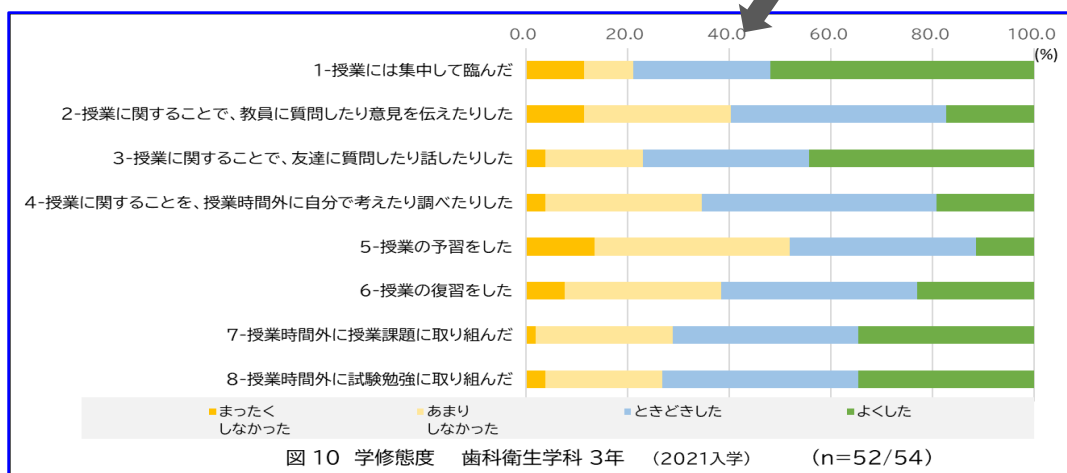
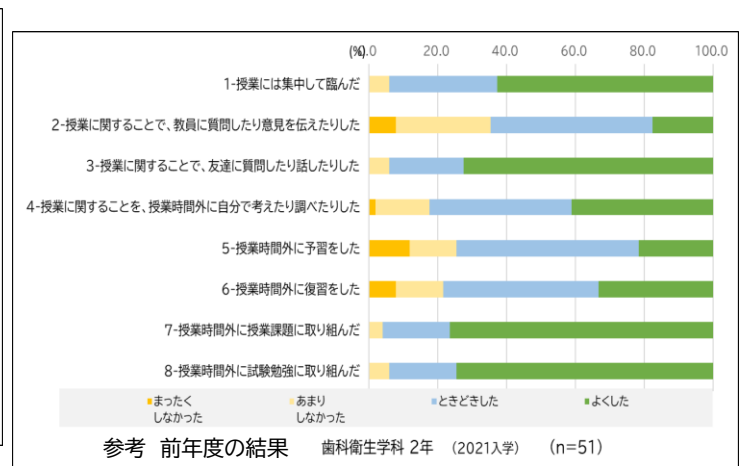
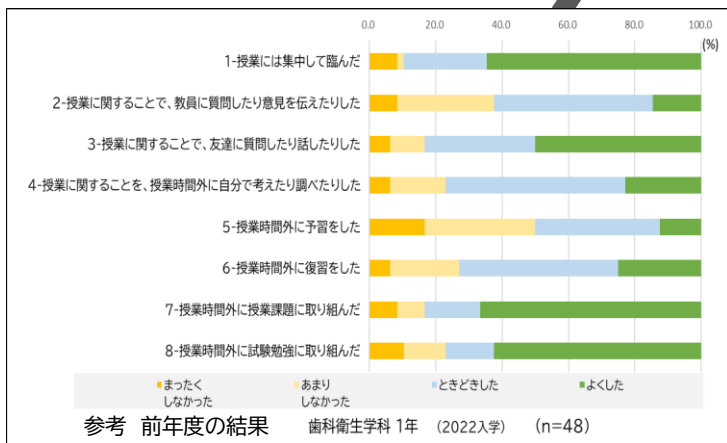
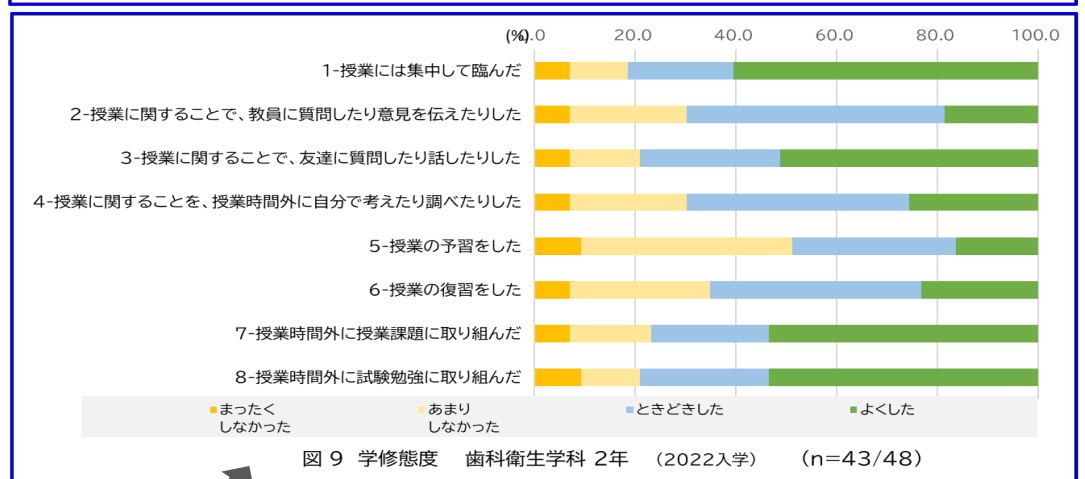
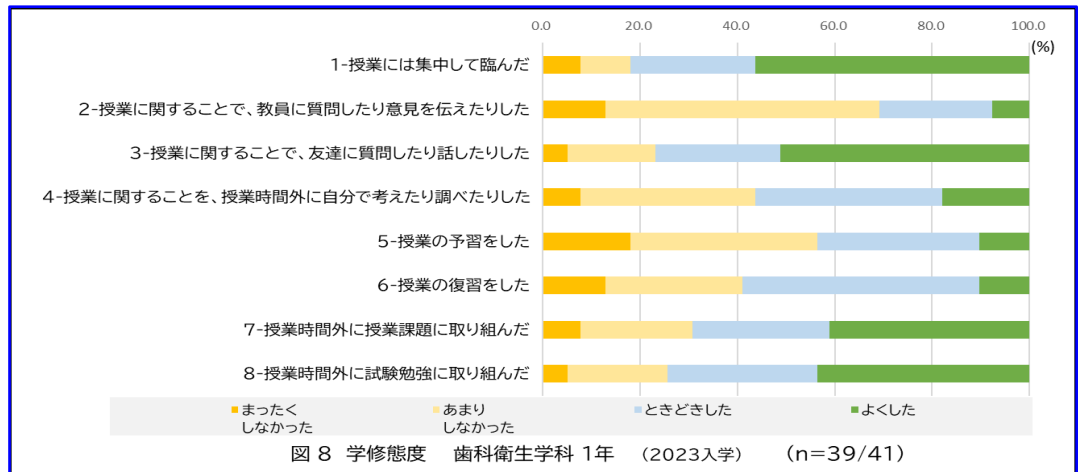
②デザイン美術学科



③音楽総合学科



④ 歯科衛生学科

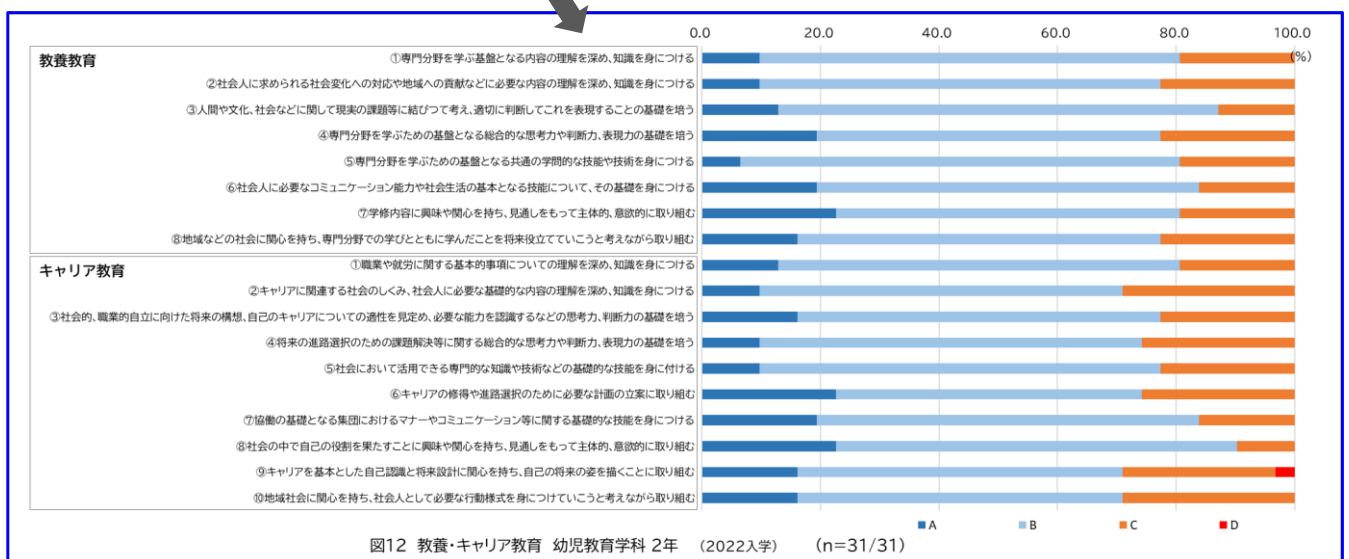
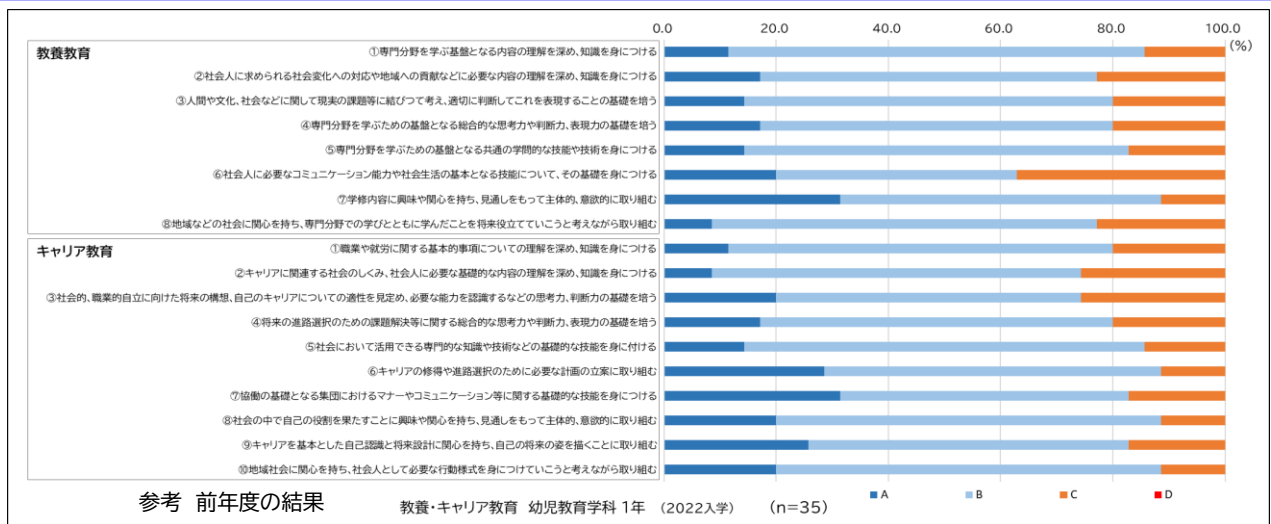
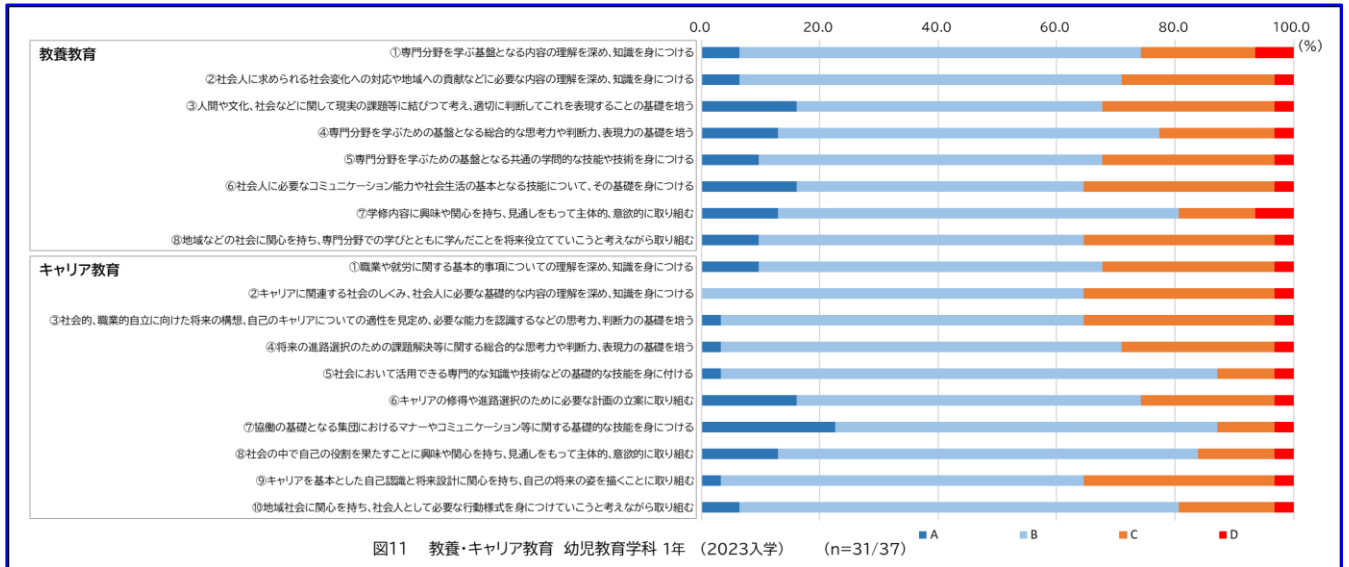


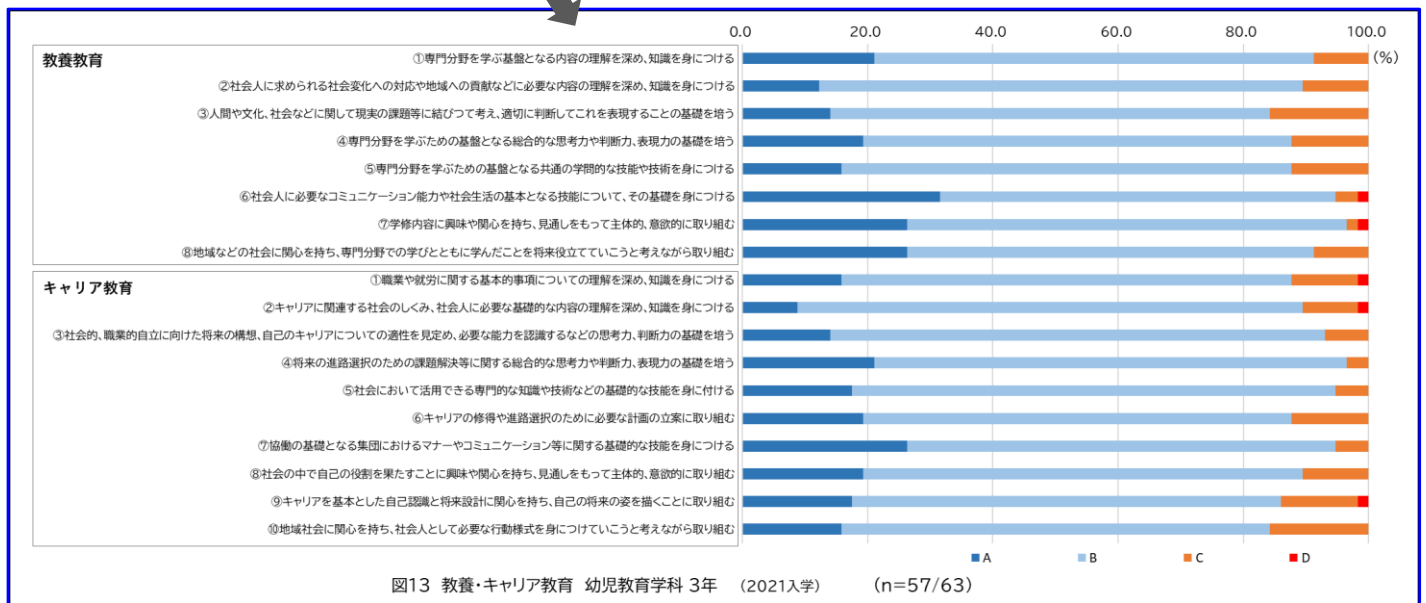
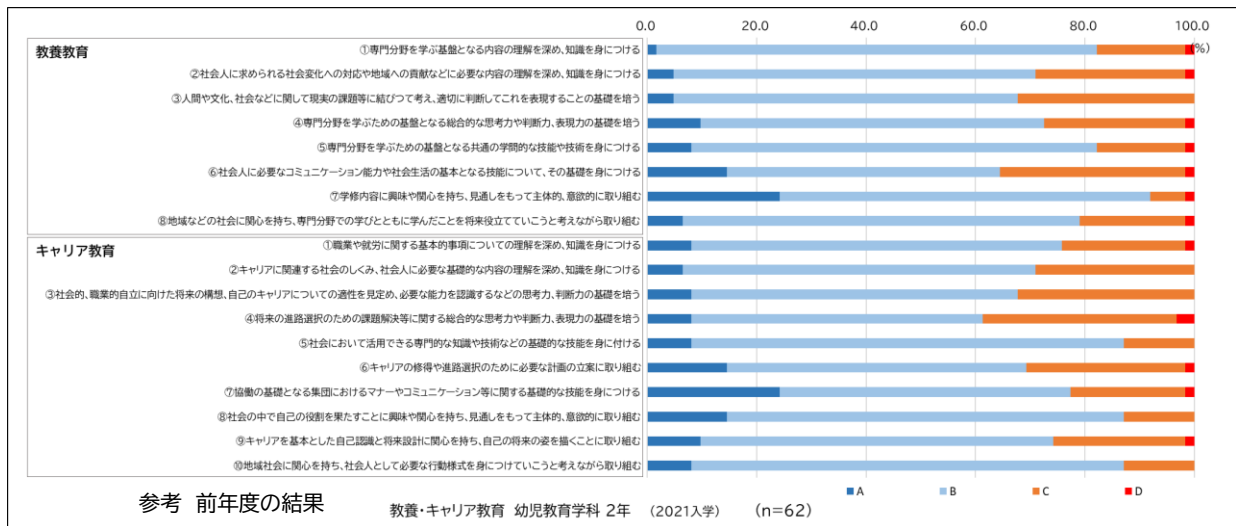
(2)教養教育及びキャリア教育の学修成果 【入学後、教養教育・キャリア教育に関してどの程度修得できたか】

「表3 教養教育・キャリア教育の学修成果に関する回答のまとめ」(2頁)、図11～図20 (7頁～11頁)のとおり。

①幼児教育学科

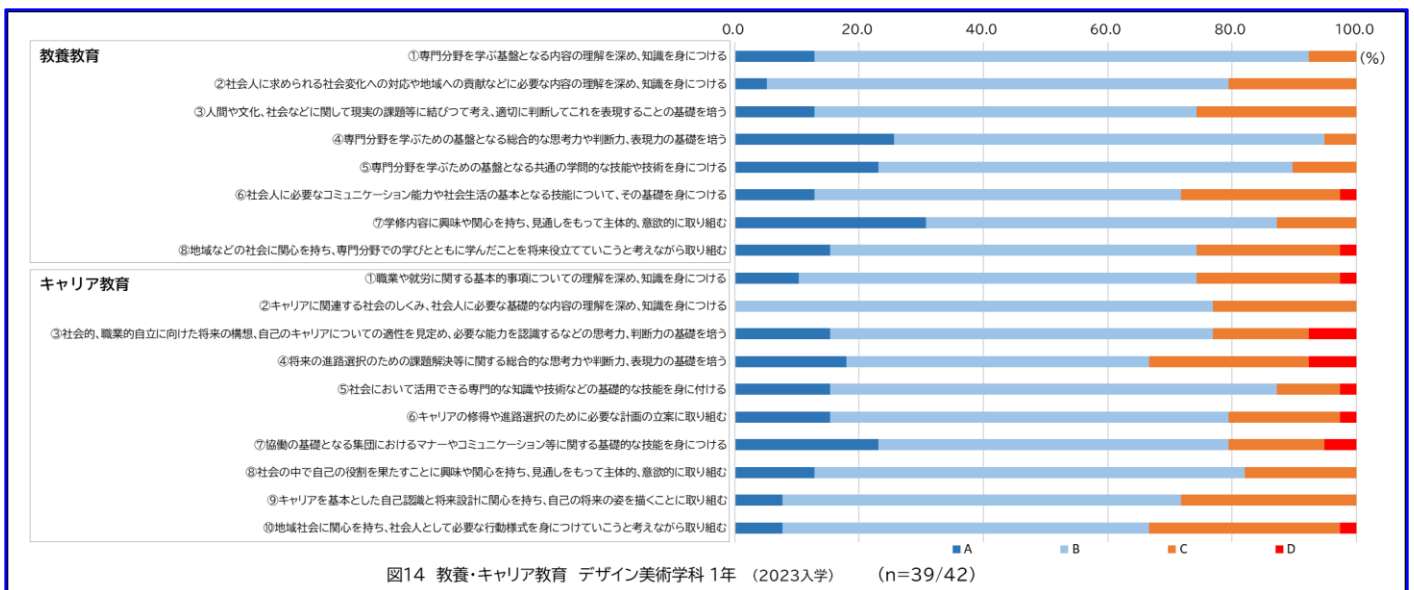
到達のめやす(A:100~80%、B:79~60%、C:59~20%、D:19~0%)

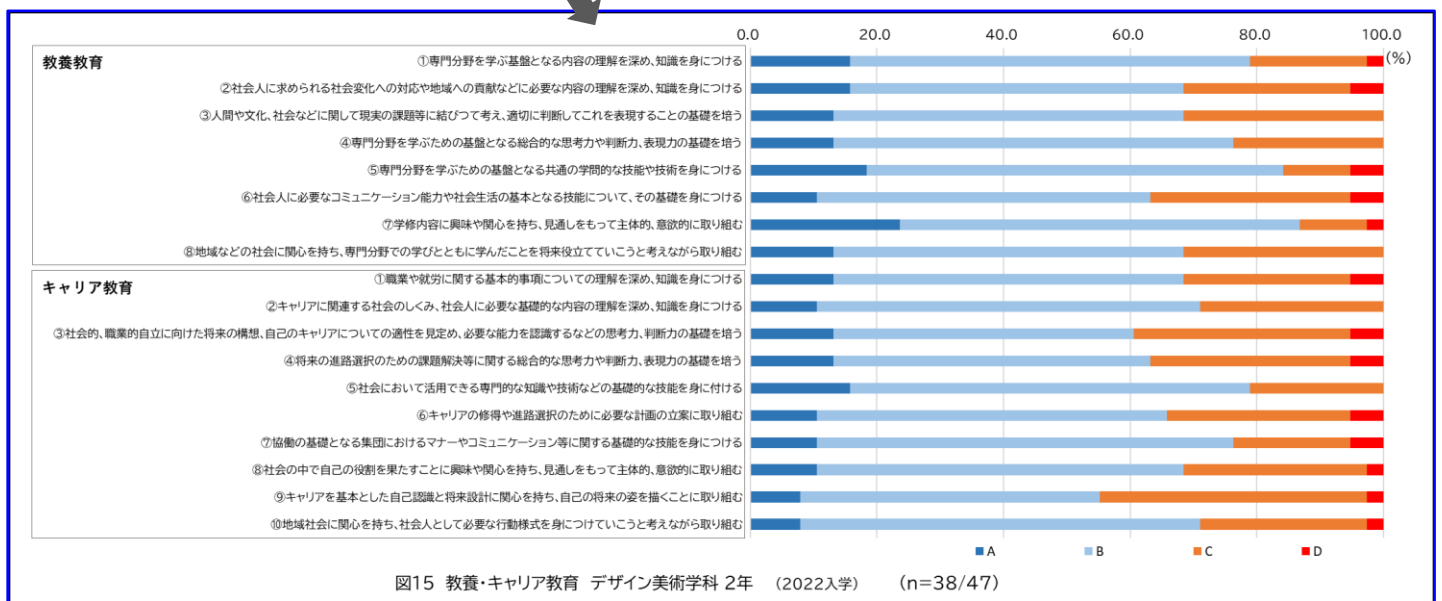
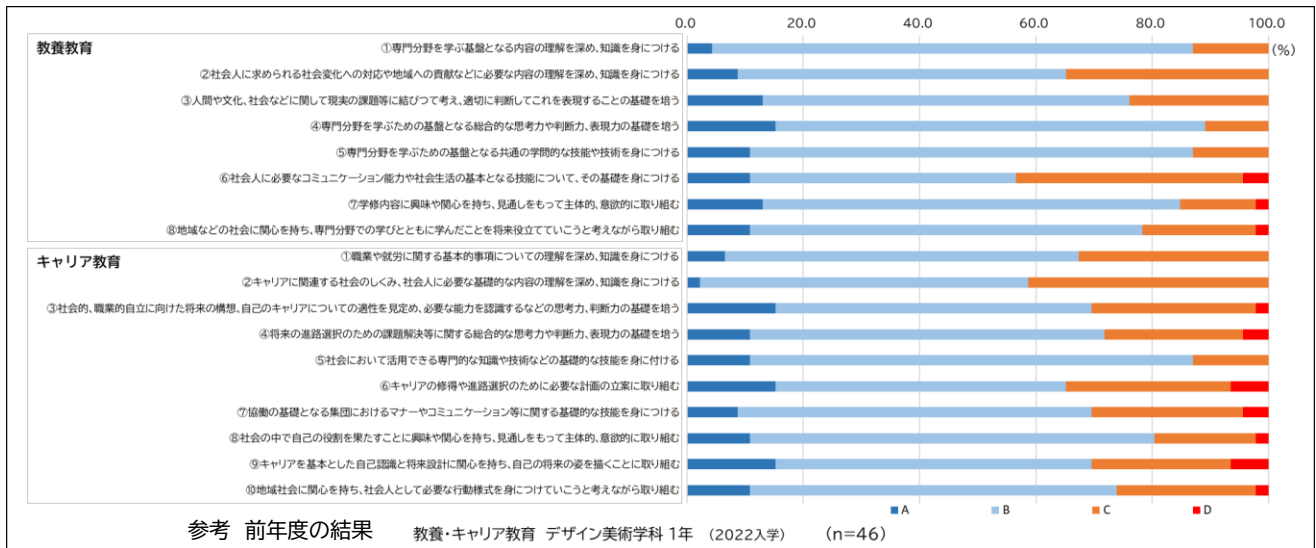




②デザイン美術学科

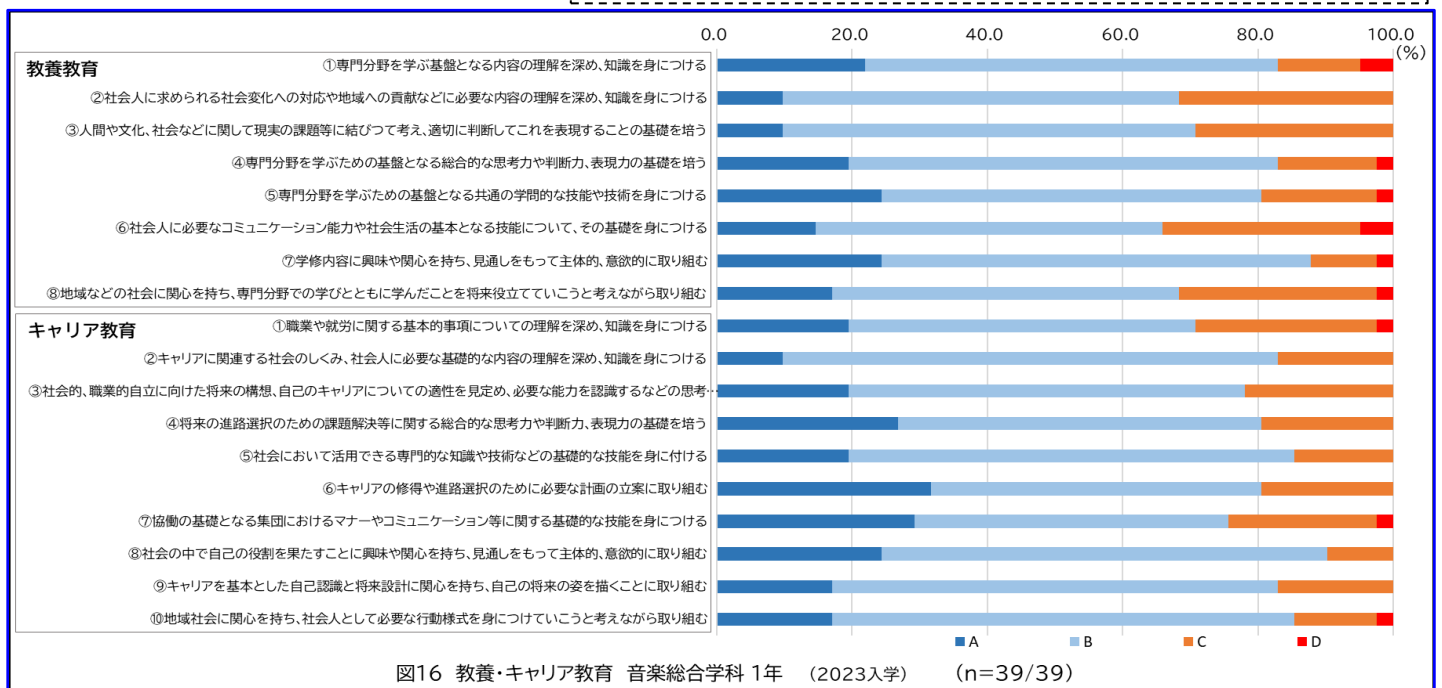
到達のめやす(A:100~80%、B:79~60%、C:59~20%、D:19~0%)

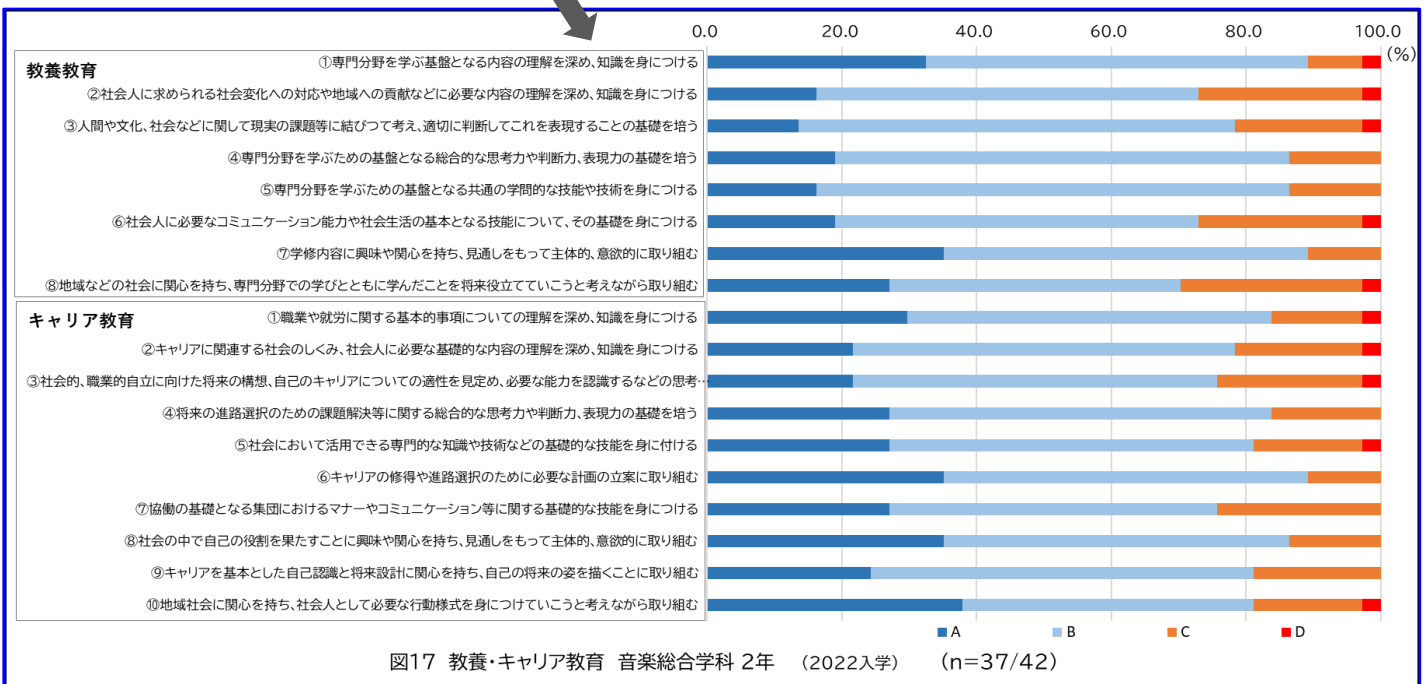
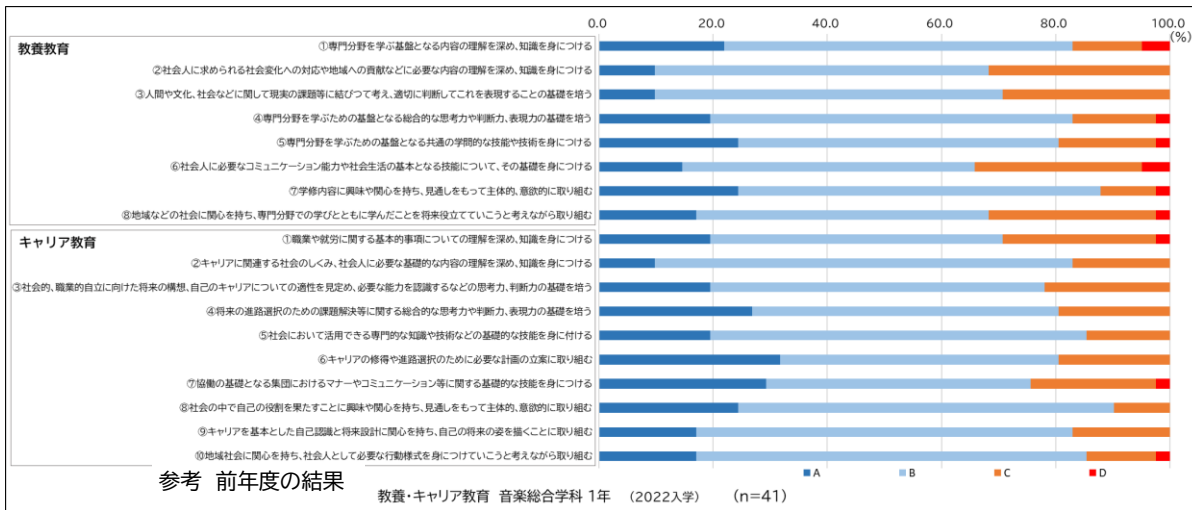




③音楽総合学科

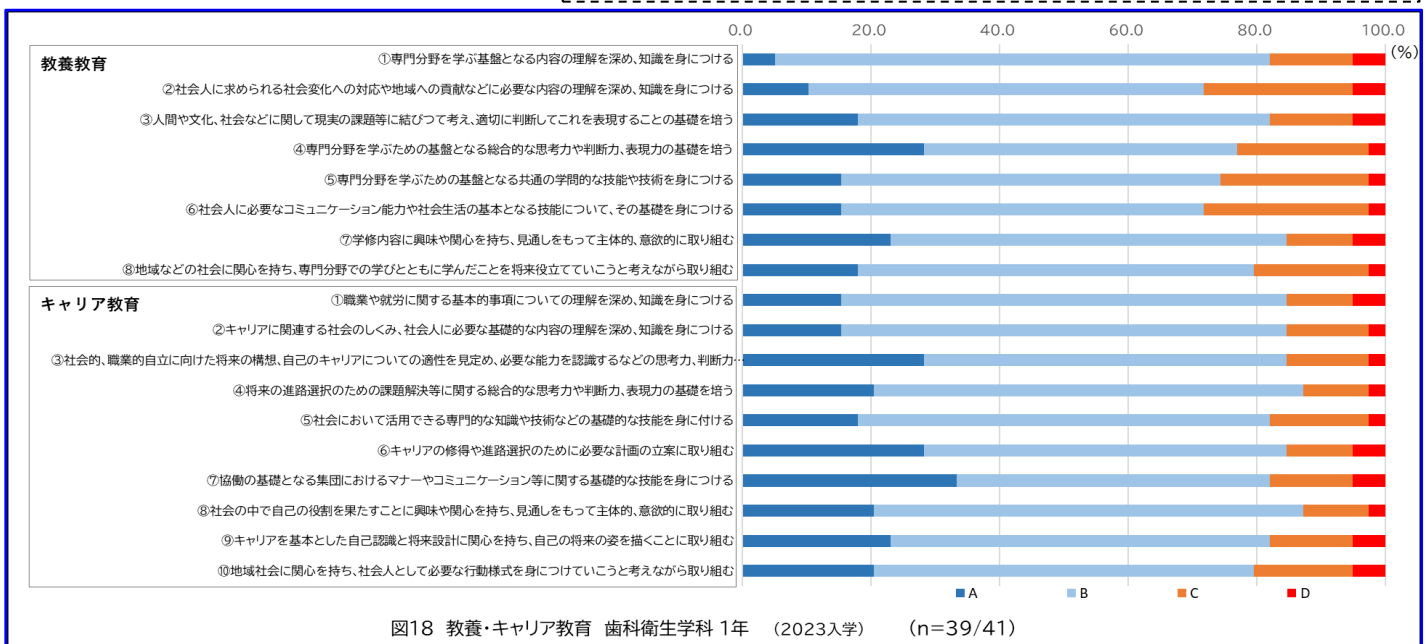
到達のめやす (A:100~80%、B:79~60%、C:59~20%、D:19~0%)

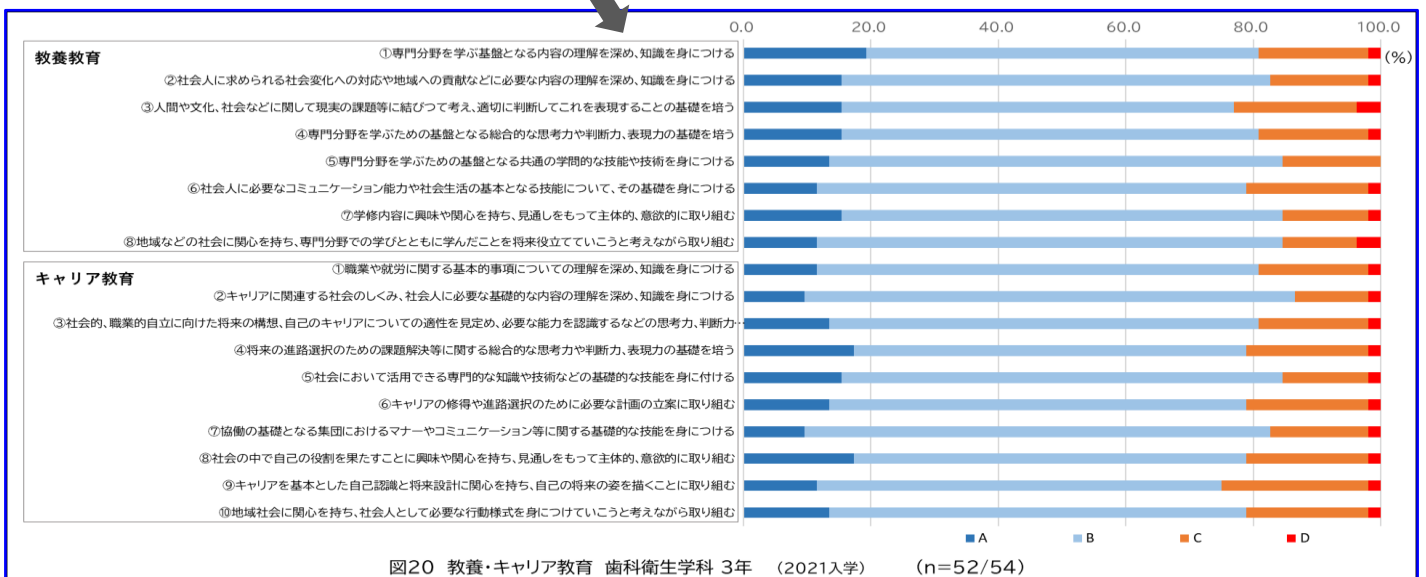
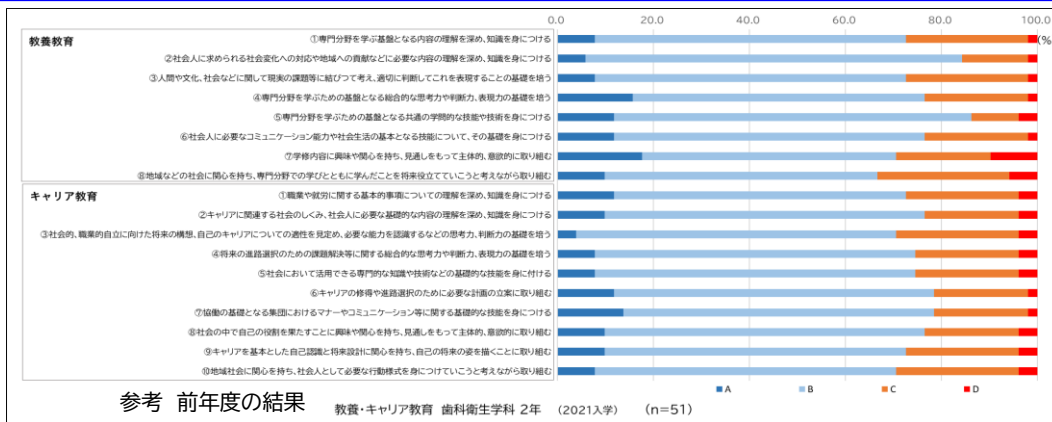
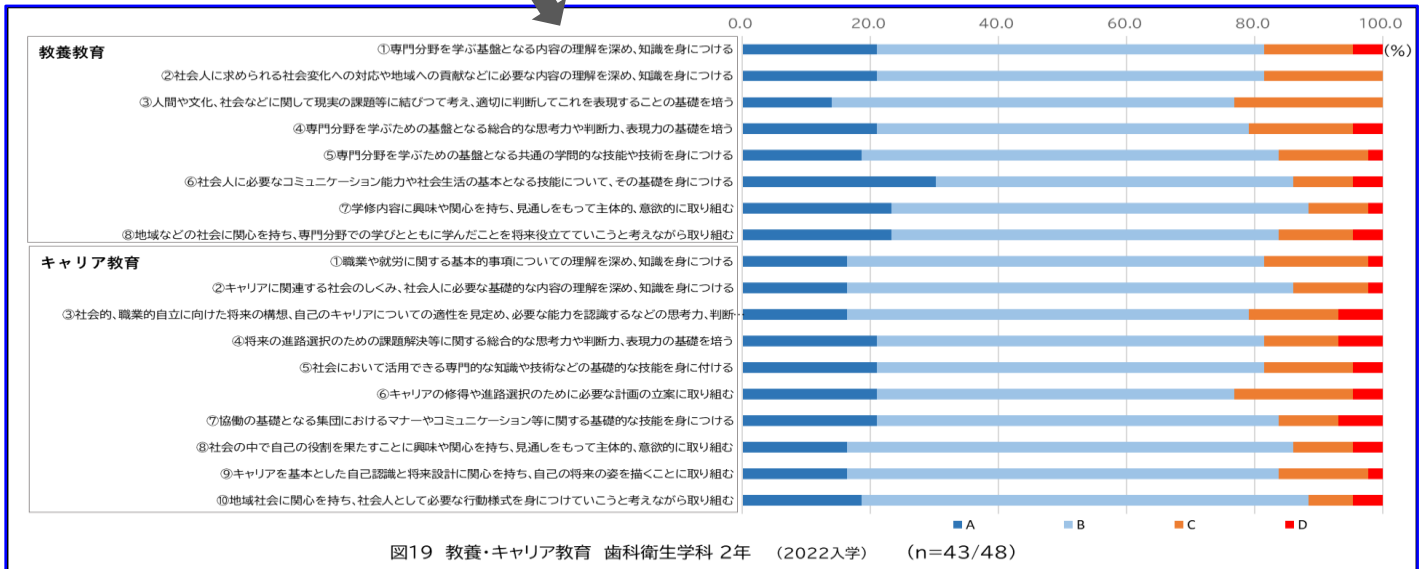
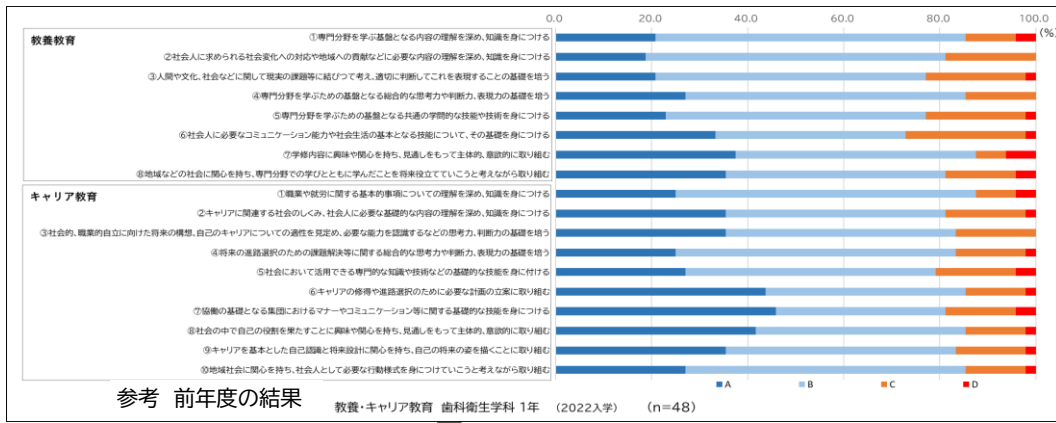




④歯科衛生学科

到達のめやす(A:100~80%、B:79~60%、C:59~20%、D:19~0%)





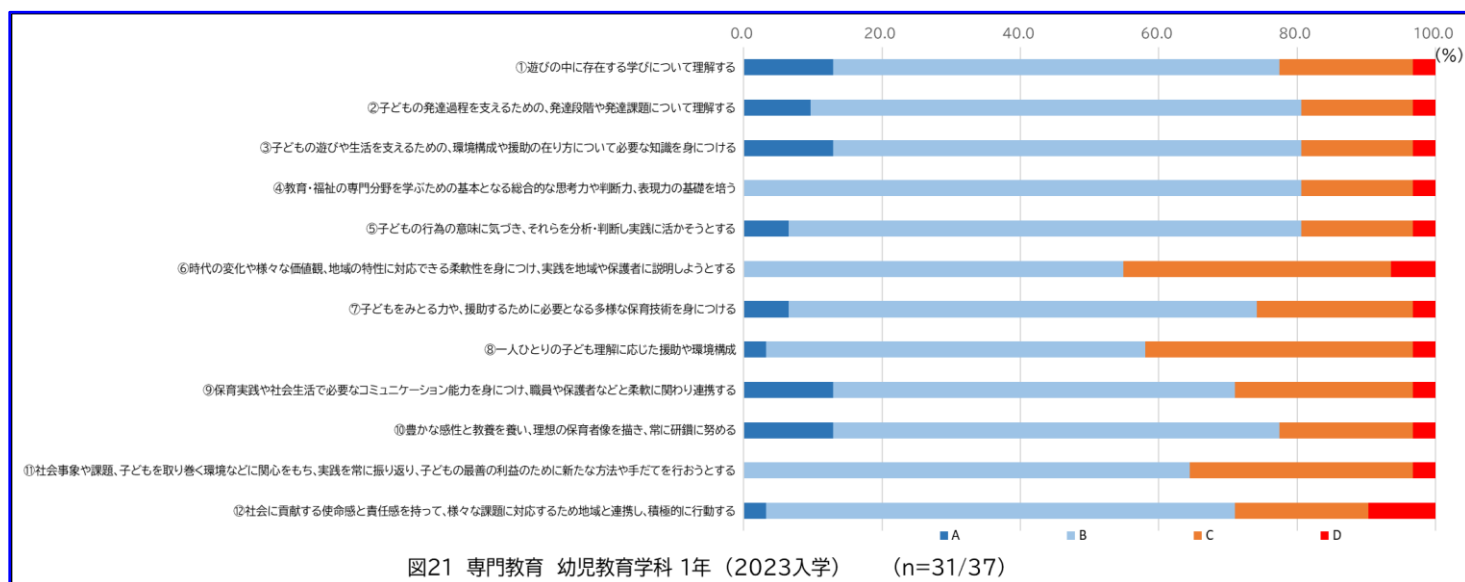
(3) 専門教育の学修成果 【 入学後、専門教育に関して、どの程度修得できたか 】

① 幼児教育学科

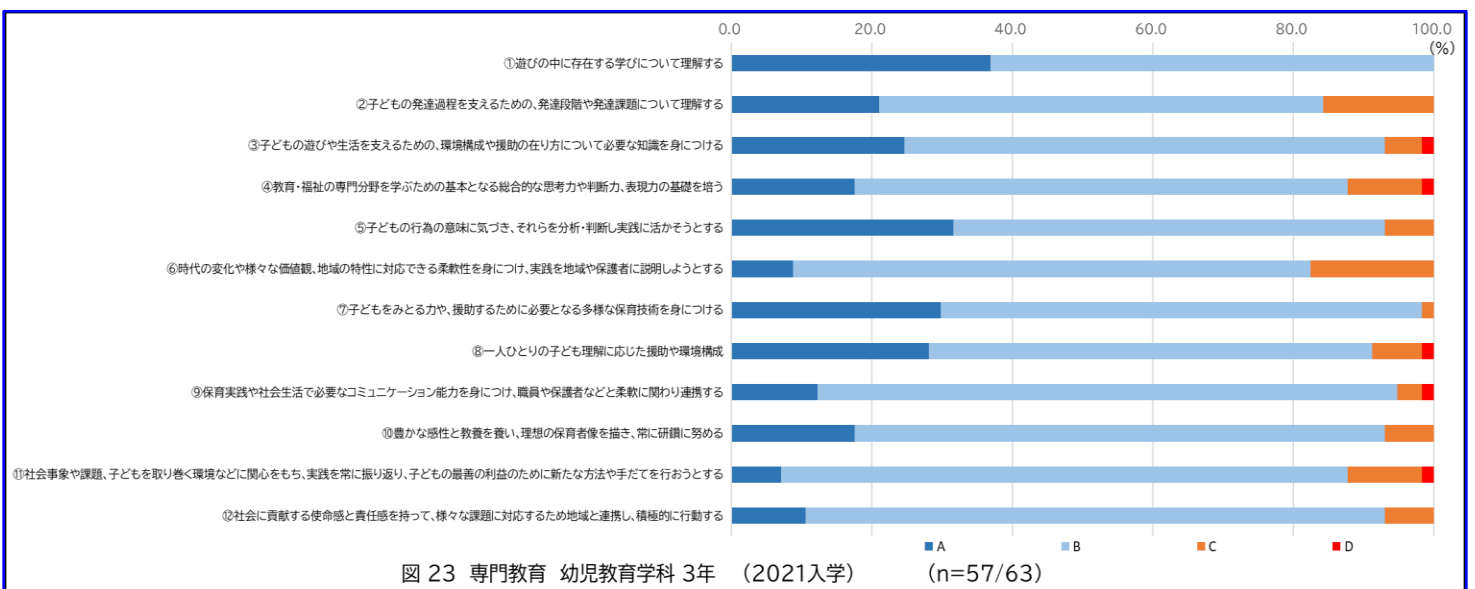
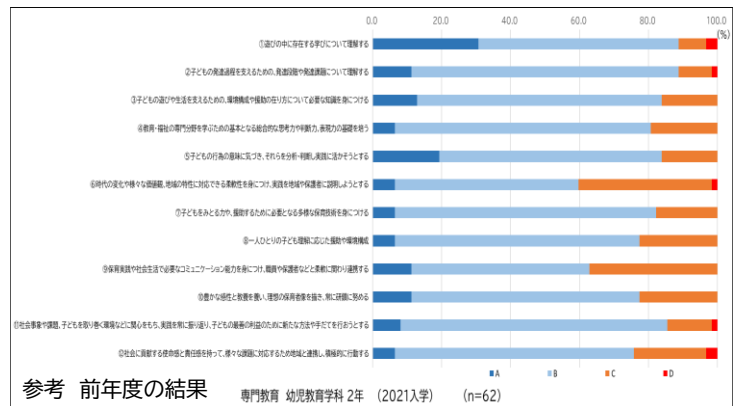
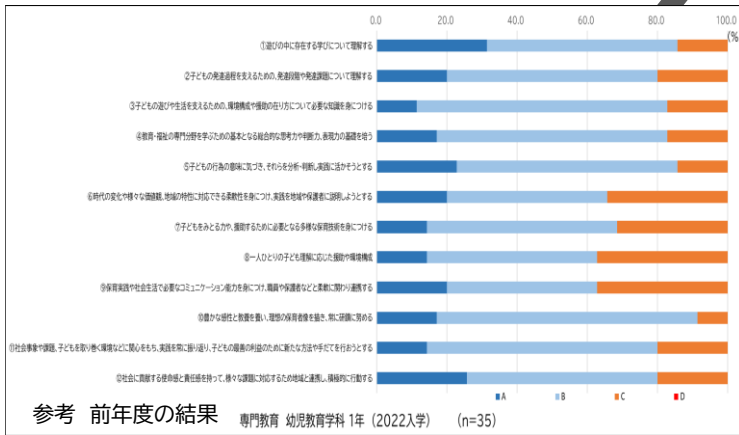
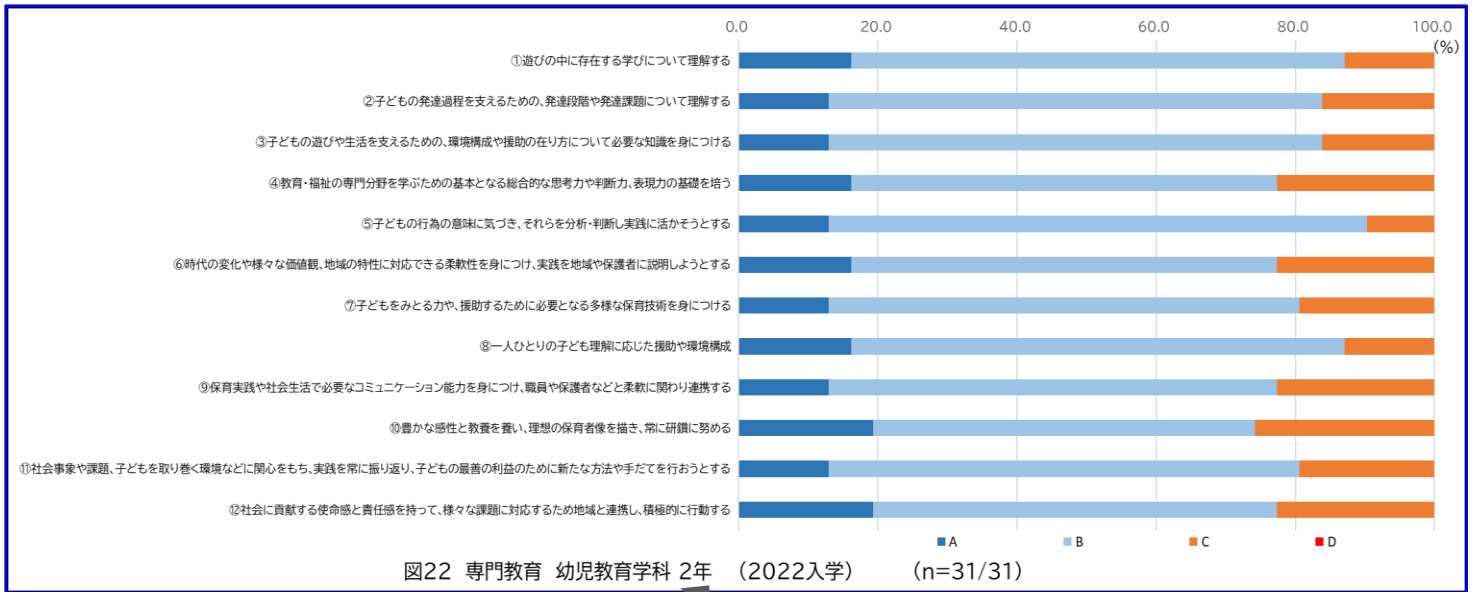
「表4 幼児教育学科専門教育の学修成果に関する回答のまとめ」(12頁)、図21～図23 (12・13頁)のとおり。

表4 幼児教育学科専門教育の学修成果に関する回答のまとめ

【 専門教育 幼児教育学科 】		1年(n=31/37)				2年(n=31/31)				3年(n=57/63)			
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
到達のめやす(A:100~80%、B:79~60%、C:59~20%、D:19~0%) (数字は回答率の%)													
知識理解	①遊びの中に存在する学びについて理解する	12.9	64.5	19.4	3.2	16.1	71.0	12.9	0.0	36.8	63.2	0.0	0.0
	②子どもの発達過程を支えるための、発達段階や発達課題について理解する	9.7	71.0	16.1	3.2	12.9	71.0	16.1	0.0	21.1	63.2	15.8	0.0
	③子どもの遊びや生活を支えるための、環境構成や援助の在り方について必要な知識を身につける	12.9	67.7	16.1	3.2	12.9	71.0	16.1	0.0	24.6	68.4	5.3	1.8
思考判断表現	④教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となる総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培う	0.0	80.6	16.1	3.2	16.1	61.3	22.6	0.0	17.5	70.2	10.5	1.8
	⑤子どもの行為の意味に気づき、それらを分析・判断し実践に活かそうとする	6.5	74.2	16.1	3.2	12.9	77.4	9.7	0.0	31.6	61.4	7.0	0.0
	⑥時代の変化や様々な価値観、地域の特性に対応できる柔軟性を身につけ、実践を地域や保護者に説明しようとする	0.0	54.8	38.7	6.5	16.1	61.3	22.6	0.0	8.8	73.7	17.5	0.0
技能	⑦子どもをみとる力や、援助するために必要となる多様な保育技術を身につける	6.5	67.7	22.6	3.2	12.9	67.7	19.4	0.0	29.8	68.4	1.8	0.0
	⑧一人ひとりの子ども理解に応じた援助や環境構成	3.2	54.8	38.7	3.2	16.1	71.0	12.9	0.0	28.1	63.2	7.0	1.8
	⑨保育実践や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけ、職員や保護者などと柔軟に関わり連携する	12.9	58.1	25.8	3.2	12.9	64.5	22.6	0.0	12.3	82.5	3.5	1.8
関心意欲態度	⑩豊かな感性と教養を養い、理想の保育者像を描き、常に研鑽に努める	12.9	64.5	19.4	3.2	19.4	54.8	25.8	0.0	17.5	75.4	7.0	0.0
	⑪社会事象や課題、子どもを取り巻く環境などに関心をもち、実践を常に振り返り、子どもの最善の利益のために新たな方法や手だてを行おうとする	0.0	64.5	32.3	3.2	12.9	67.7	19.4	0.0	7.0	80.7	10.5	1.8
	⑫社会に貢献する使命感と責任感を持って、様々な課題に対応するため地域と連携し、積極的に行動する	3.2	67.7	19.4	9.7	19.4	58.1	22.6	0.0	10.5	82.5	7.0	0.0



到達のめやす(A:100~80%、B:79~60%、C:59~20%、D:19~0%)



②デザイン美術学科

「表5 デザイン美術学科 専門教育の学修成果に関する回答のまとめ」(14頁)、図24・25 (14 頁)のとおり。

表5 デザイン美術学科 専門教育の学修成果に関する回答のまとめ

【 専門教育 デザイン美術学科 】		1年(n=39/42)				2年(n=38/47)			
		A	B	C	D	A	B	C	D
到達のめやす(A:100~80%, B:79~60%, C:59~20%, D:19~0%) (数字は回答率の%)									
知識理解	①美術・デザイン分野を学ぶ基盤となる知識を有する	20.5	69.2	10.3	0.0	26.3	57.9	15.8	0.0
	②美術・デザイン分野を学ぶ基盤となる知識への理解を深める	30.8	64.1	5.1	0.0	28.9	55.3	13.2	2.6
	③美術的表現の理論を修得し、応用させる	5.1	76.9	17.9	0.0	10.5	63.2	21.1	5.3
思考判断表現	④美術的表現の必要性を、総合的に考える	15.4	71.8	12.8	0.0	13.2	65.8	18.4	2.6
	⑤美術的表現での、要・不要や是非を判断できる	15.4	61.5	23.1	0.0	10.5	60.5	26.3	2.6
	⑥制作実践において、意義ある美的表現ができる	17.9	64.1	17.9	0.0	21.1	55.3	23.7	0.0
技能	⑦美術表現上、必要な技法を修得する	23.1	71.8	5.1	0.0	18.4	63.2	18.4	0.0
	⑧継続的に研究をし、視覚表現の提案ができる	7.7	64.1	28.2	0.0	13.2	52.6	28.9	5.3
	⑨クリエイターとして必要なコミュニケーション能力を修得	15.4	56.4	25.6	2.6	18.4	44.7	36.8	0.0
関心意欲態度	⑩美的なものに興味や関心を持ち続ける	46.2	48.7	5.1	0.0	50.0	36.8	10.5	2.6
	⑪真摯な気持ちで美術・デザイン分野の研究に、主体的・意欲的に取り組む	33.3	64.1	2.6	0.0	26.3	60.5	13.2	0.0
	⑫社会貢献する気持ちを持ち、地域と連携し積極的に行動する	12.8	38.5	41.0	7.7	2.6	52.6	36.8	7.9

※ はA&Bで60%未到達の項目(卒業年)

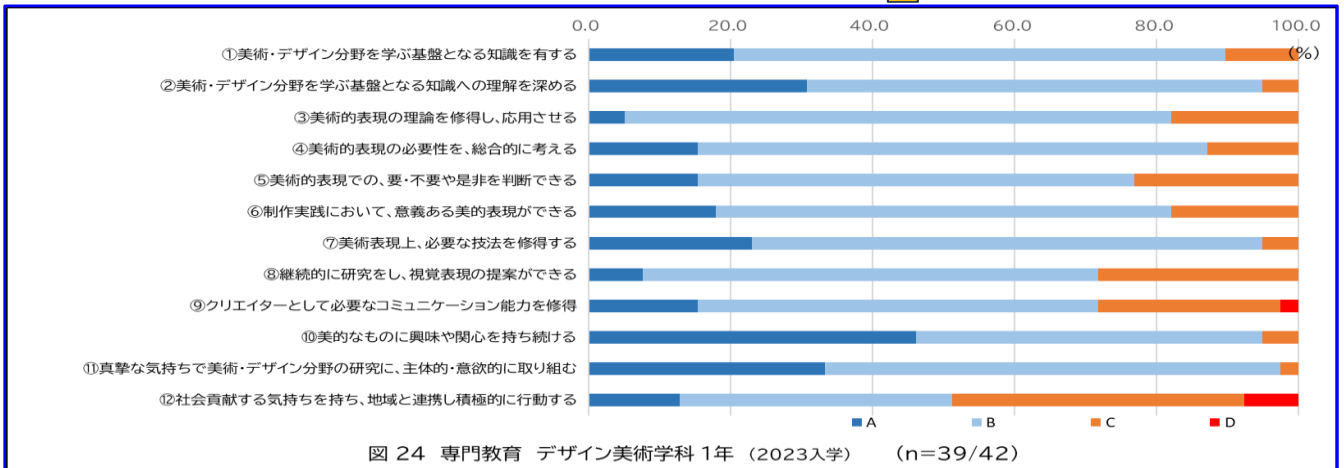
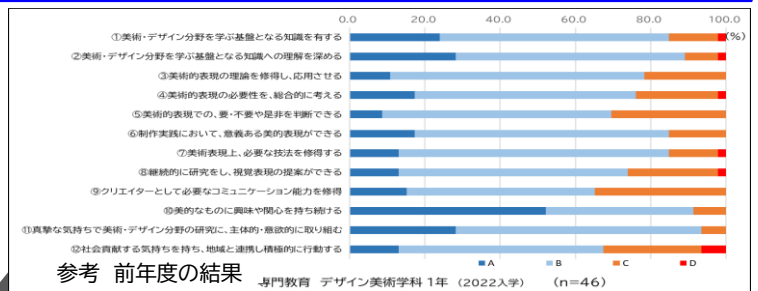


図 24 専門教育 デザイン美術学科 1年 (2023入学) (n=39/42)



参考 前年度の結果 専門教育 デザイン美術学科 1年 (2022入学) (n=46)

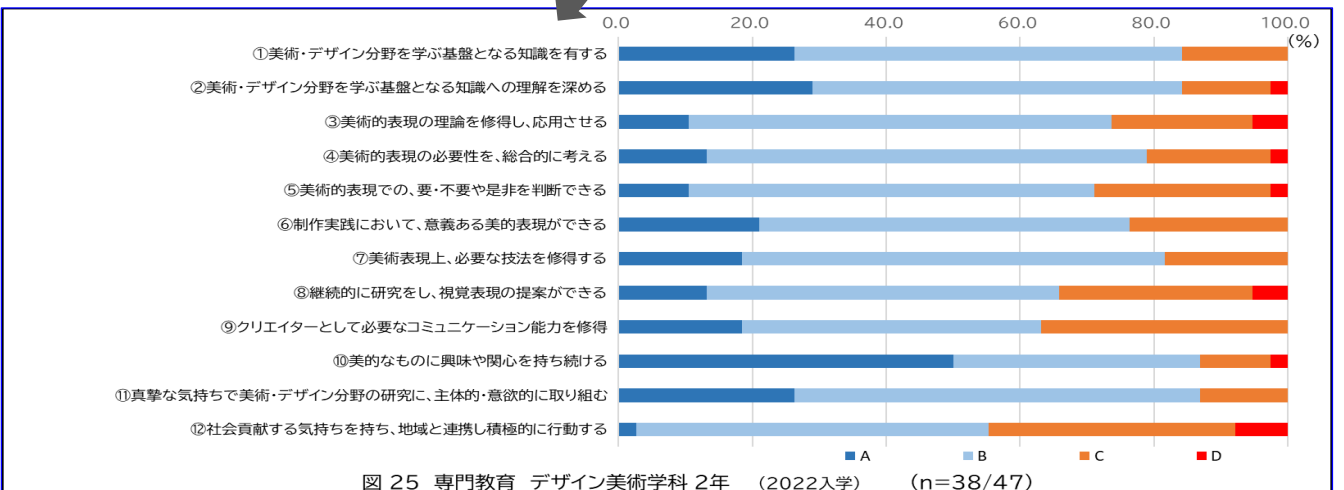


図 25 専門教育 デザイン美術学科 2年 (2022入学) (n=38/47)

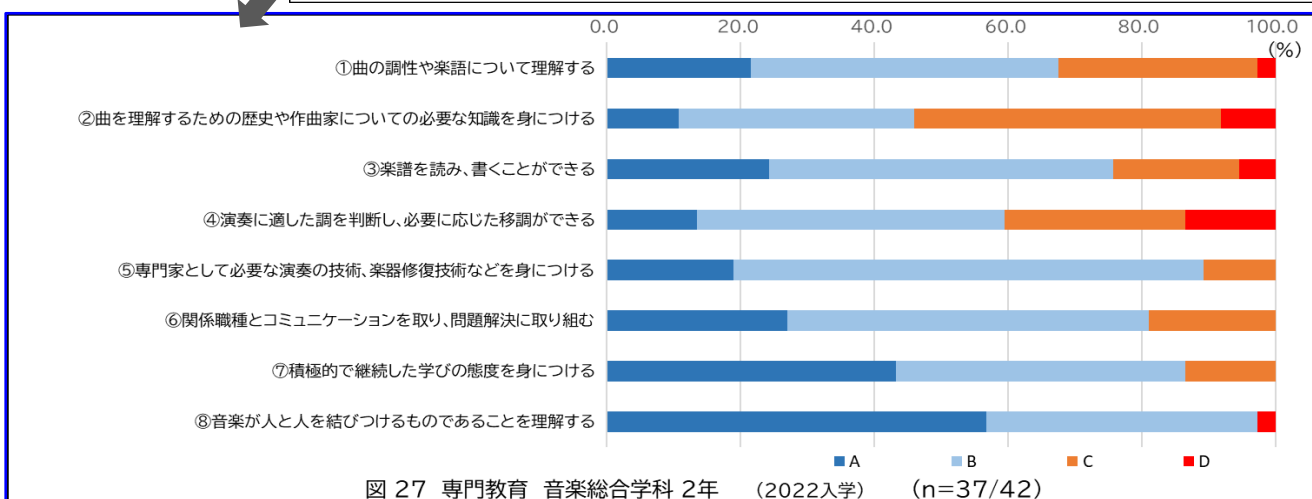
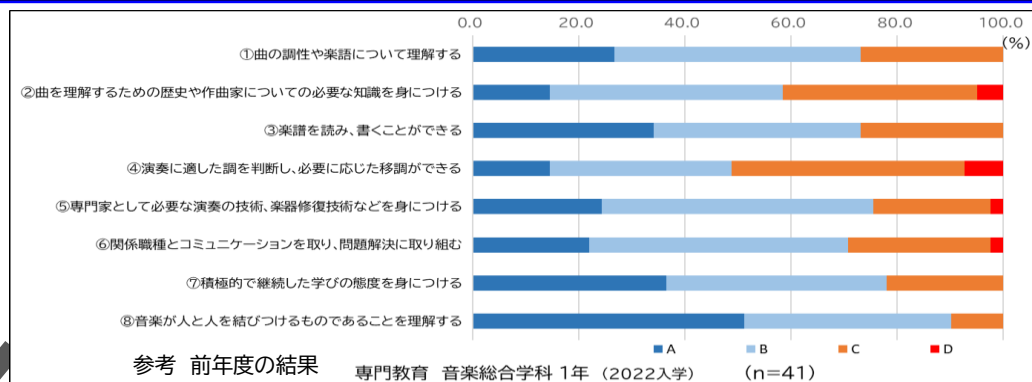
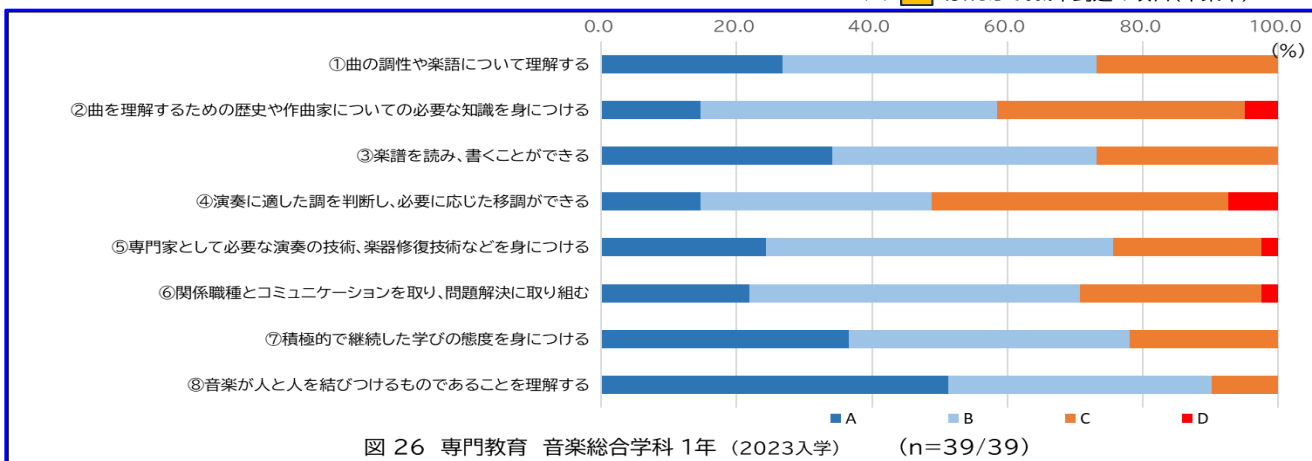
③音楽総合美術学科

「表6 音楽総合学科 専門教育の学修成果に関する回答のまとめ」(15頁)、図26・27 (15頁)のとおり。

表6 音楽総合学科 専門教育の学修成果に関する回答のまとめ

【 専門教育 音楽総合学科 】		1年(n=39/39)				2年(n=37/42)			
		A	B	C	D	A	B	C	D
到達のめやす(A:100~80%, B:79~60%, C:59~20%, D:19~0%) (数字は回答率の%)									
知識理解	①曲の調性や楽語について理解する	26.8	46.3	26.8	0.0	21.6	45.9	29.7	2.7
	②曲を理解するための歴史や作曲家についての必要な知識を身につける	14.6	43.9	36.6	4.9	10.8	35.1	45.9	8.1
思判断表	③楽譜を読み、書くことができる	34.1	39.0	26.8	0.0	24.3	51.4	18.9	5.4
	④演奏に適した調を判断し、必要に応じた移調ができる	14.6	34.1	43.9	7.3	13.5	45.9	27.0	13.5
技能	⑤専門家として必要な演奏の技術、楽器修復技術などを身につける	24.4	51.2	22.0	2.4	18.9	70.3	10.8	0.0
	⑥関係職種とコミュニケーションを取り、問題解決に取り組む	22.0	48.8	26.8	2.4	27.0	54.1	18.9	0.0
関意態	⑦積極的に継続した学びの態度を身につける	36.6	41.5	22.0	0.0	43.2	43.2	13.5	0.0
	⑧音楽が人と人を結びつけるものであることを理解する	51.2	39.0	9.8	0.0	56.8	40.5	0.0	2.7

※ ■ はA&Bで60%未到達の項目(卒業年)

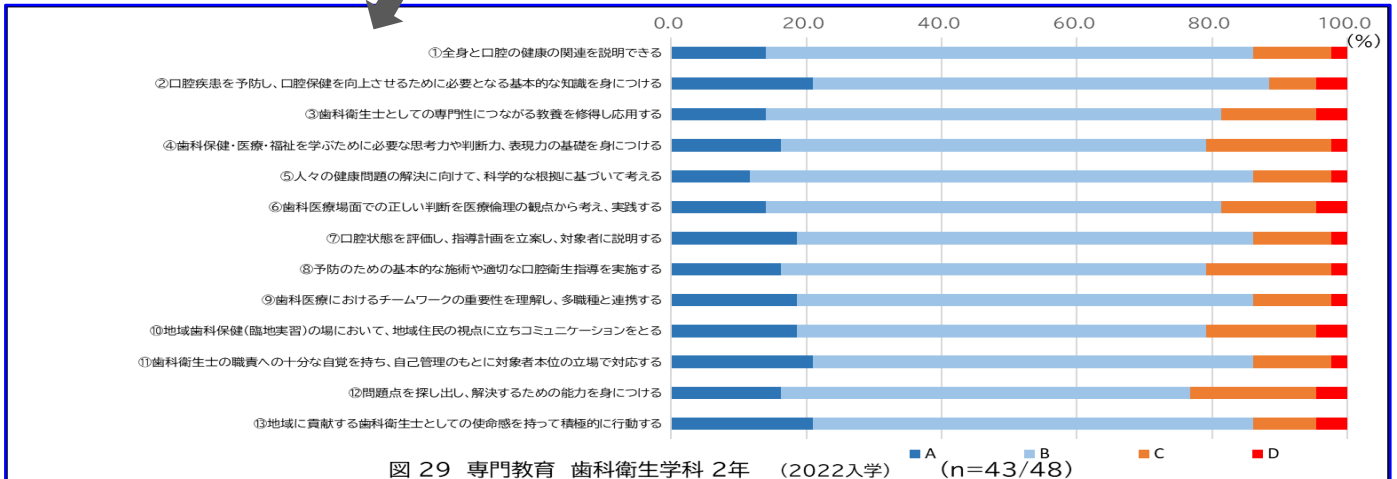
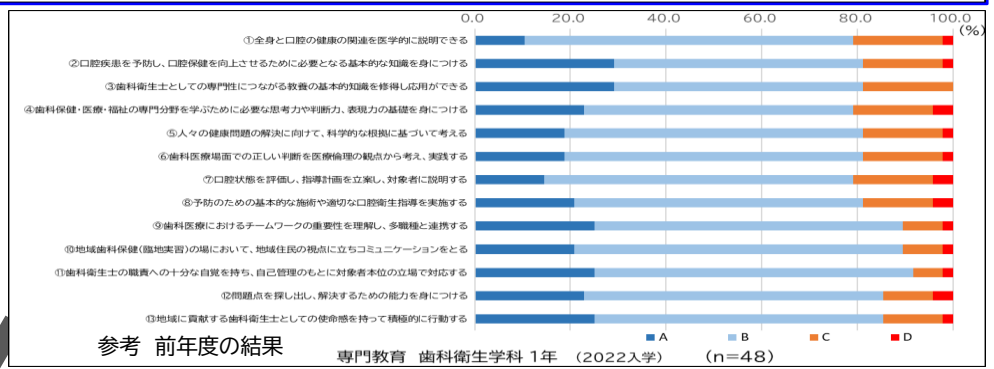
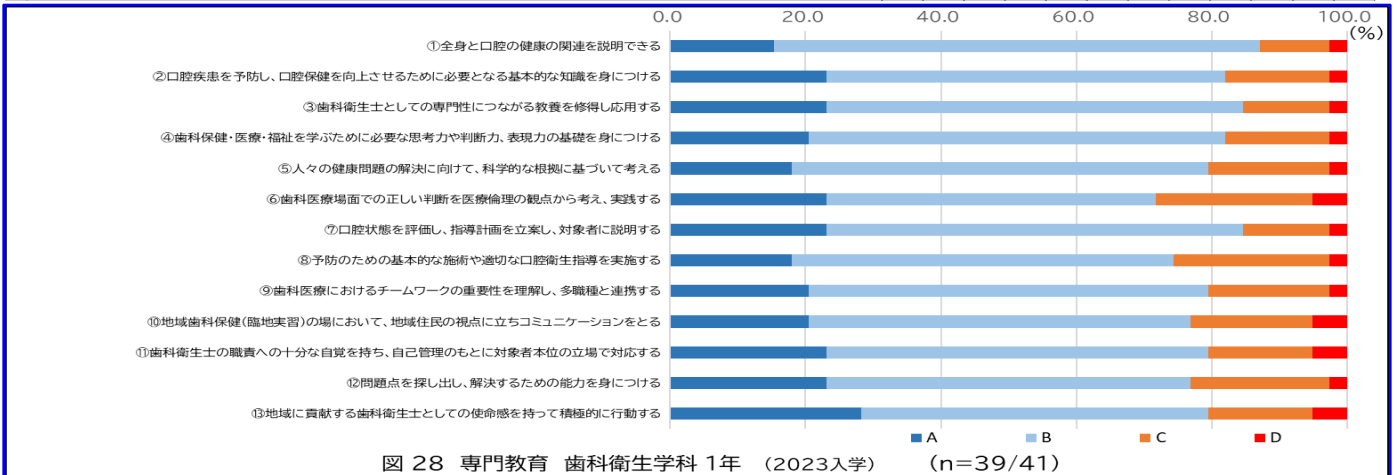


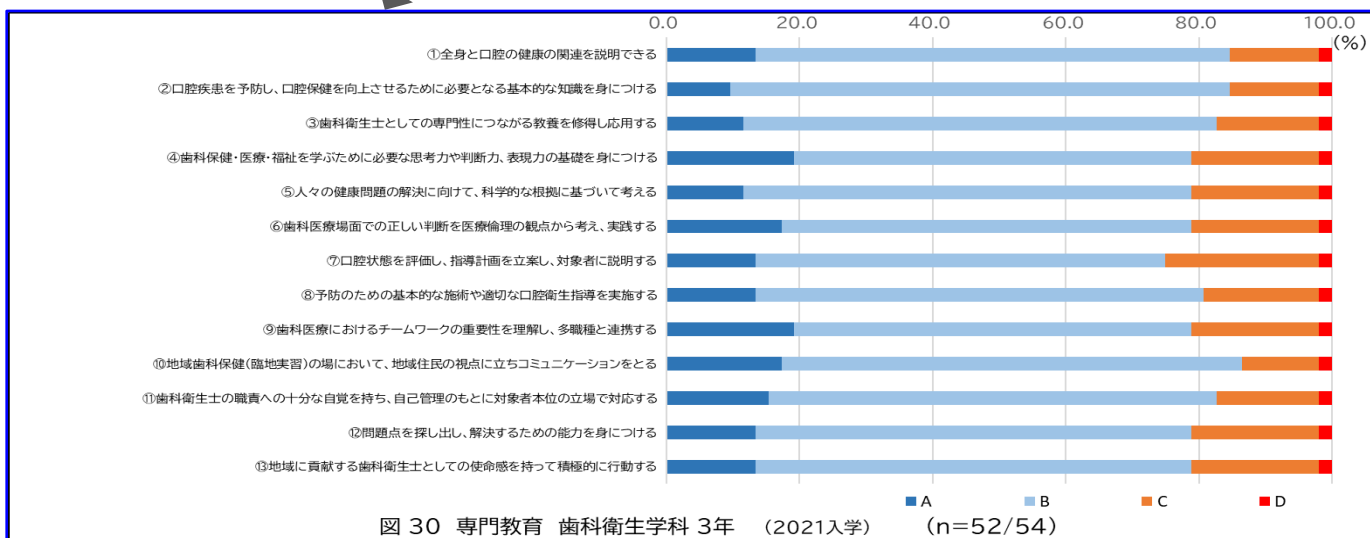
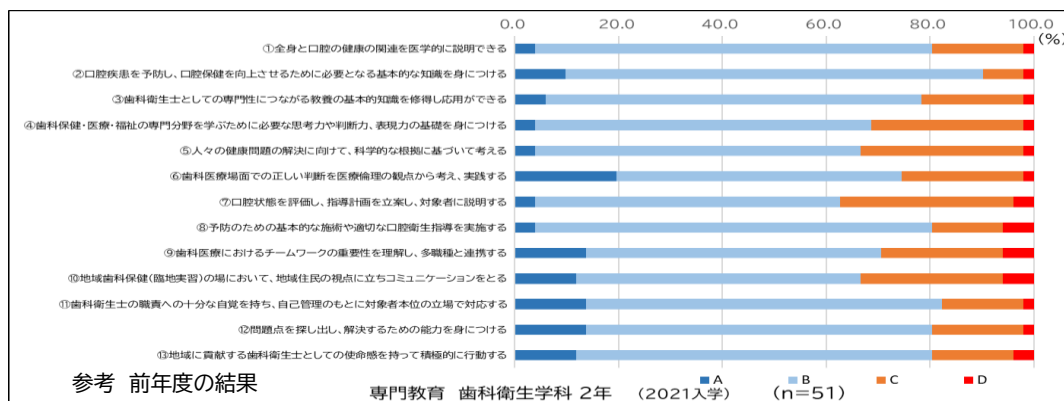
④ 歯科衛生学科

「表7 歯科衛生学科 専門教育の学修成果に関する回答のまとめ」(16頁)、図28～図30 (16・17頁)のとおり。

表7 歯科衛生学科 専門教育の学修成果に関する回答のまとめ

【 専門教育 歯科衛生学科 】		1年(n=39/41)				2年(n=43/48)				3年(n=52/54)			
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
到達のめやす (A:100～80%、B:79～60%、C:59～20%、D:19～0%) (数字は回答率の%)													
知識理解	①全身と口腔の健康の関連を説明できる	15.4	71.8	10.3	2.6	14.0	72.1	11.6	2.3	13.5	71.2	13.5	1.9
	②口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるために必要となる基本的な知識を身につける	23.1	59.0	15.4	2.6	20.9	67.4	7.0	4.7	9.6	75.0	13.5	1.9
	③歯科衛生士としての専門性につながる教養を修得し応用する	23.1	61.5	12.8	2.6	14.0	67.4	14.0	4.7	11.5	71.2	15.4	1.9
思考判断表現	④歯科保健・医療・福祉を学ぶために必要な思考力や判断力、表現力の基礎を身につける	20.5	61.5	15.4	2.6	16.3	62.8	18.6	2.3	19.2	59.6	19.2	1.9
	⑤人々の健康問題の解決に向けて、科学的な根拠に基づいて考える	17.9	61.5	17.9	2.6	11.6	74.4	11.6	2.3	11.5	67.3	19.2	1.9
	⑥歯科医療現場での正しい判断を医療倫理の観点から考え、実践する	23.1	48.7	23.1	5.1	14.0	67.4	14.0	4.7	17.3	61.5	19.2	1.9
技能	⑦口腔状態を評価し、指導計画を立案し、対象者に説明する	23.1	61.5	12.8	2.6	18.6	67.4	11.6	2.3	13.5	61.5	23.1	1.9
	⑧予防のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導を実施する	17.9	56.4	23.1	2.6	16.3	62.8	18.6	2.3	13.5	67.3	17.3	1.9
	⑨歯科医療におけるチームワークの重要性を理解し、多職種と連携する	20.5	59.0	17.9	2.6	18.6	67.4	11.6	2.3	19.2	59.6	19.2	1.9
関心意欲態度	⑩地域歯科保健(臨地実習)の場において、地域住民の視点に立ちコミュニケーションをとる	20.5	56.4	17.9	5.1	18.6	60.5	16.3	4.7	17.3	69.2	11.5	1.9
	⑪歯科衛生士の職責への十分な自覚を持ち、自己管理のもとに対象者本位の立場で対応する	23.1	56.4	15.4	5.1	20.9	65.1	11.6	2.3	15.4	67.3	15.4	1.9
	⑫問題点を探し出し、解決するための能力を身につける	23.1	53.8	20.5	2.6	16.3	60.5	18.6	4.7	13.5	65.4	19.2	1.9
	⑬地域に貢献する歯科衛生士としての使命感を持って積極的に行動する	28.2	51.3	15.4	5.1	20.9	65.1	9.3	4.7	13.5	65.4	19.2	1.9





到達のめやす (A:100~80%、B:79~60%、C:59~20%、D:19~0%)

(4)カリキュラム等に関する要望等 【 開設してほしい授業科目と時間割・履修内容など:自由記述 】

「表9 開設してほしい授業科目や時間割・履修内容などに関する回答のまとめ」(18頁)のとおり。

表9 開設してほしい授業科目や時間割・履修内容などに関する回答のまとめ

【開設希望科目等】	1 年	2 年	3 年
幼児教育	・カリキュラムは十分だと思う。	—	・実習、特に実務研修は身になるものですが、精神的にも体力的にもきつかったです。休憩ありにする、記録作成を含めた実習時間にするなど、負担感が軽減されることを求めます。 ・同じ授業が2コマ続いたら2,3限ではなく、昼食を挟まないようにしてほしいです。 ・入学当初にもっと実習について詳しく知りたかった。休暇中に実習があるとは思わなかった。どのくらいの頻度で実習があるのか知りたかった。 ・資格申請に全部でどれだけの値段がかかるのか、一覧に出して欲しかった。急な出費で一人暮らしからしたら辛かった。
デザイン美術	・初心者でも水彩を学べるのがとても嬉しく、油画にも触れてみたいと思いました。	・教員の数が少なすぎる。コース毎のカリキュラムをもっと増やし、基礎知識を学べる機会を増やしてほしい。 ・現役、フリーイラストレーター講義、インボイス制度についての講義があるとよい。 ・授業でオンラインと対面授業であるものの方針が明確だといと思います。 ・授業内容で教えて頂けることもありますが、授業内で自主的に調べ行うという授業も多く、授業を履修している利点をあまり感じられないものもある為、その点は改善すべきだと思った。 ・日本・東洋美術史、美術総論の目的や必要性がよくわからない。表現などを理解するとはあるが、覚える(テストにされる)ことはその美術品の名前と作者が多くを占めており、結局何が目的なのかわからない。美術品を見せられ、これはこうと言われたところでそれが今の自分たちにどれだけ影響があるかわからない。それに授業内容もわかる前提で話されても困るし、今回の美術総論に関してはリモートが多すぎるためそもそも頭にあまり入らない。	
音楽総合	・音楽療法コースでも、吹奏楽実践の授業が取れるようにしてほしいです。 ・水曜日を5限まで必修にしないで欲しいです。	・毎年同じことをするのはあまり良くないと思った。1年生でやったことを2年になっても同じことをやるのは変だと感じた。去年もやったことだなと感じた。	
歯科衛生	—	—	・教室が寒いです。

4. 結果から

調査の結果から、以下の点について考察するが、これらは、今後の教育課程の改善、それぞれの授業設計や教材開発及び教材の選択、教育環境の整備等を行う際の参考とするべき内容を含むと考えられる。

また、FD information で示された学生による授業評価とも関わらせて、授業を担当する各教員が学生の学びの実態と合わせて検討すべき内容でもありと考えられる。

(1) 回答学生数と回答率 ※表1(1頁)参照

今年度も昨年度同様に、各学科において学生回答率100%達成に至らなかったのは残念である。

例年のことであるが、各学科の教務委員をはじめとする多くの教員及び事務局職員の努力により本調査が継続的に実施できているので、今後とも協力していただけるようお願いしたい。

(2) 学修態度 ※表2(2頁)参照

① 授業に意欲的に取り組む姿勢 (表2 問1)

昨年度と同様の設問項目で、「1-授業には集中して臨んだ」については、回答4(よくした)の値が約60%(今年度は57.8%⇒昨年度は60.7%)であり、高い水準を維持している(「ときどきした」も含めると86.2%⇒昨年度は90.7%)。回答1&2(まったくしなかった、あまりしなかった)の値は、13.8%(昨年度は9.2%)。このことから、学生の学びの姿勢・意欲は高いと捉えることができるが、若干の下降傾向を鑑みると、各担当者による授業の工夫改善を視野にいれて、授業における学修活動の在り方について、日常的に検討していくことが重要であると考えられる。

② 学生相互や教職員とのつながり (表2 問2・3) ※短大生調査設問13参照

本学の特徴の一つである学生と教職員(教員と事務職員)の結びつきの強いことは、コロナ禍以前から大きく変化しているものではない。設問2や設問3で、「授業に関することで」教員や仲間に質問したり話したりしたとの回答が、どの学科、どの学年においてもおおむね60%を超えていることから、つながりの強いことがわかる。今後も学生と教員、学生間をつなぐ意識を意図して授業設計をしていくことが大切であり、日常的な考察を継続していくことが重要であると考えられる。

③ 図書館の利用や活用

※短大生調査にて、授業での図書館の利用状況についての問い(設問11 3頁～8頁)を参照

④ 短大生調査

「短大生調査」においても、学修態度全般に関する質問項目があり、本学の学修行動調査をあわせて実態及び状況を総合的に把握して、よりよい授業を提供することを目指して常に意識していく必要がある。

(3) 教養教育・キャリア教育 ※表3(2頁)参照

① 学年の特性と学年による学びの深まり

今年度も学年進級とともに教養教育、キャリア教育ともに学びの深まりがうかがえる。しかし、本学における教養教育の中心となる「教養科目」は、基本的に1年次で履修を終了するため、2年次以降では教養教育についての到達度が低くなる傾向が見られる。

また、教養教育・キャリア教育ともに、項目(「表現」「コミュニケーション力」という用語の含まれた設問)によって苦手意識が若干みられる(※表3 ピンク色の部分は学年進行によって増えている)。キャリア教育では、1年次から「教養キャリア基礎演習」を中心に計画的に実施していることにより、どの学科でも高い到達度を回答している。しかし、若干名の到達度の低い学生も見られるため、引き続きキャリア教育の重要性を示しながら継続的な指導が展開できるようにしていく必要がある。

② 教養教育について

到達のめやす「A(100～80%)」&「B(79～60%)」で、全学科全学年で75%(昨年度は70%)を超える結果を示しており、おおむね達成できていると捉えることができる。今年度も昨年度同様に教養基礎キャリア演習Ⅱにて初年次教育の振り返り(基礎教養科目)を実施したが、多くの学生が自身で身に付けた力を実感した記述があり、到達目標向上に大きく寄与している。ただし、前述の「表現」「コミュニケーション力」の育成については、到達度の低い学生も顕在しており、専門科目も含めての底上げが必要であると考えられる。

③ キャリア教育について

到達のめやす「A(100～80%)」&「B(79～60%)」で、全学科全学年で昨年度同様75%を超える結果を示しており、おおむね達成できていると捉えることができる。

また、到達のめやす「C(59～20%)」&「D(19～0%)」と回答した学生の数が相対的に多い項目も見受けられる。特にデザイン美術学科で40%以上の学生が「C」や「D」の回答をしている項目があるのが気になる((表2 赤色部分 2年・・・自己認識と将来設計に関心を持ち、自己の将来の姿を描くこと C回答42.1%⇒昨年度より項目数は減少)。実態や状況、原因等について、さらに深く調べることも重要である。ただし、この調査はあくまで自己評価であるので、授業における教育評価など、教職員から見た評価もあわせて考える必要がある。

(4) 専門教育について ※表4(12頁)、表5(14頁)、表6(15頁)、表7(16頁)参照

各学科のDP(ディプロマ・ポリシー)における到達指標(=本学で考える学生の学修成果)に沿っているため、これまでの調査結果と同様に学年進級によって高い到達の割合を回答する学生が増えている。

最終学年では、すべての学生が最低でも60～80%以上到達の自己評価をすることが理想である。デザイン美術学科の項目12(社会貢献する気持ちを持ち、地域と連携し積極的に行動する)及び音楽総合学科の項目2(曲を理解するための歴史や作曲家についての必要な知識)以外でこの数値をクリアしている。

自己評価の若干低い項目内容については、学生の学びの在り方と、科目の目的・目標の適切性を検証して教育課程に反映させ、学生の学びがより深まるカリキュラムを展開できるようにしていくことが重要である。

(5) 授業科目及び施設等の整備 ※表9(18頁)参照

① 教育課程等に関する学生の希望

科目履修の仕方での要望があるが、教育課程編成上可能な範囲で応えていくことが大切である。その際には、学科(コース)の特質を踏まえて実現可能かどうかを総合的に判断していくことが重要である。

環境改善と施設整備については、昨年度に比べて少なくなってきたが、学生の声に常に耳を傾け、要望内容を要検討事項として、学生の学びの質の向上に寄与できるようにしたい。学生が表明した要望や希望について、考えを述べてくれたことについて感謝するとともに、どのように対処するのか(要望等自体の適切性も含めて)きちんと説明等を返していくことが大切な教育活動の一つである。

② FD 活動との関連

教員がFD活動に取り組む際には、学生による授業評価や学生の学修行動の状況や学習成果についての自己評価及び短大生調査等を継続的に調査するとともに、学生の要望を踏まえておくことが大切である。

以上